

4000 名山記 2013年

1/1~1/6 公共交通機関シリーズ 6 連弾。1/1 秩父 1 山晴れ「熊倉山」13:20~18:20(5:00)武州日野駅より往復。舗道を 50 分歩き城山登山口。向かいの(城山)を往復後急な植林地の尾根を淡々と進み、やせ尾根の岩場を慎重に歩いて急な岩場を登ると山頂。夕日・山々の眺めよい。尾根を慎重に戻り登山口で薄暮。1/2 伊豆七島 伊豆大島「三原山」晴れ 10:55~13:00(2:05)久里浜より荒波の中、高速ジェットで行くも帰りの高速は全て荒天で欠航。大型フェリーの東京行きが取れ何とか戻る。バス停三原山山頂口よりお鉢巡りし、噴火口を覗き、強風に吹き飛ばされながらも、何とか左回りで戻る。1/3 秩父 1 山晴れ「三峰山」13:30~16:25(2:55)三峰神社参拝後、尾根伝いにすぐ山頂。展望良く、電子基準点あり。神社の奥社のある(妙法ヶ岳)まで行き戻る。1/4 奥多摩 2 山晴れ「天目山」山頂 13:05「酉谷山」同 15:00 10:50~18:05(7:15)東日原バス停より長駆往復。植林地を経て尾根に出て(横すず山)を経て天目山頂。富士・山々・街並みの展望が抜群。尾根伝いに(七跳山)を経て巻き道を淡々と進み酉谷山頂。こちらも展望良い。尾根伝いに(日向ノ頭、坊主山)を経て植林地よりライトをつけて戻る。1/5 奥多摩 2 山晴れ「天祖山」山頂 13:05「水松山」同 14:05 10:00~18:30(8:30)昨日同じ東日原バス停より長駆往復。舗道・林道を歩き、八丁橋登山口より急斜面を一気に進み、社のある天祖山頂。樹林の中、陽光心地よし。急坂を下り、緩やかに上り返すと水松山頂。樹林の中、なだらかで静かな山頂。さらに尾根伝いに進みヘリポート先の(滝谷ノ峰)より昨日の酉谷を遠望して巻き道等を急ぎ足で戻る。1/6 秩父 1 山晴れ「芋ノ木ドッケ」10:35~15:35(5:00)三峰神社口より尾根伝いに(霧藻ヶ峰、前白岩山、白岩山)を経て雲取・長沢の分岐より倒木の道を進むと芋ノ木山頂。樹林の中で展望なし。氷の下り道のため軽アイゼンをつけゆっくり下り、お清平より、アイゼンをしまい、最終バスの前のバス乗車を目指して白い半袖シャツ姿で一気に駆け下る。正月 6 日間天候に恵まれ山三昧。両膝が悲鳴上げているが・・・。

車復帰戦。1/12(土)晴れ浜松北部 2 山「観音山」11:35~15:15(3:40)所能登山口よりテープを目安に植林地を進み、トラバースすると尾根に出て少し進むと観音山山頂。三角点あり、木々の間から山々の展望を楽しみ、未完成の施設の跡を残念に思いつつ来た道に戻る。「大洞山」15:55~17:50(1:55)登山口の林道わからず地元の人に聞いて林道はわかったが、登山口分からず、行ったり来たりで小さな標示板見つけ入山。植林地を進み、なだらかところを過ぎるとやせ尾根の岩々。慎重に進み一山越えると大きな岩山。急斜面を慎重に登ると大洞山頂。丁度夕日の沈む時刻に間に合い日没。樹林の中の三角点のある山頂。下りも急斜面、やせ尾根、岩を慎重に進み、ネットを張った植林地でライトをつけ下山。1/13(日)晴れのち曇り南ア 1 山、中ア 2 山「朝日山」7:40~11:30(3:50)前回破断した車下部のパイプを気にして落石を避けて白倉林道通行止めまでゆっくり車で進む。林道歩き後登山口より植林地を進み、踊り場を経て倒木地帯を過ぎると急坂で鹿を追いつつ上ると残雪が出て山らしくなり、すぐ平坦な朝日山山頂。樹林の中で兵越方面からの縦走の雪足跡あり。下りは陽光を楽しみながら下山。林道からこの時期ならではの氷の滝・つらら等を楽しむ。「茶臼山」14:20~15:10(0:50)「萩太郎山」15:20~16:15(0:55)中央アルプス最南の茶臼と向かいのスキー場の山頂リフトすぐ上の萩太郎をハイキング。どちらも南アルプス・中央アルプス等の展望良く、南アの山々の形を確認。明日天候良くなく、今回はここまで。天気にも恵まれ雪も少ない冬山を満喫。

1/19,20 奥三河 4 山 1/19(土)晴れ「八嶽山」11:20~14:50(3:30)佐久間ダム上流にあり、駐車場を地元の人に聞き熊野神社より、植林地を進み尾根に出ると雪が多くなり、慎重にトラバース等して歩き急坂を登ると山頂。陽光心地よく、展望台から南の山々、ダム湖の眺めよい。積雪 20~30cm。下りは雪滑りで軽快に下る。「日本ヶ塚山」15:10~17:50(2:40)中沢砂防ダムへの林道口より、遊歩道歩き。一部崖崩で慎重に

歩く。木橋を渡り植林地を進み尾根に出ると細い尾根伝いに雪を踏みしめて歩く。広い急斜面で雪のため道不明。とりあえず上を目指し進むとすぐ山頂。二等三角点、南ア等山々の眺め良し。積雪 20cm。雪滑りを楽しみつつ急斜面は慎重に下る。木橋を渡ると月と雪明かりの風情を楽しみながら沢沿い歩き。林道を経て戻る。1/20(日)晴れ「段戸山」7:40～10:30(2:50)駒ヶ原の林道が氷と雪で車は登れず、途中でデポし林道を歩いて駒ヶ原山荘まで行くが登山口わからず、林道を進み、駒ヶ原林道登山口より山入り。テープを頼りに進むが、足跡もなく、20cmぐらいの積雪で道を探しながら慎重に進む。急斜面に苦勞しながら笹の雪を被りながら、尾根を経て山頂。2等三角点。青空・朝日・北側の展望を楽しむ。積雪 40cm。来た道を雪滑りを楽しみつつ下山。以上の 3 山はこの時期なので誰にも会わず。「寧比曾岳」12:55～15:00(2:05)大多賀峠より、雪の東海自然歩道を歩いて山頂。久しぶりに人が多い山。アクセスよく、整備されているためか。山頂からの展望・青空・陽光を楽しみ、先に見える出来山へのルート探るが遠いため、断念し戻る。積雪 20～30cm。今後は、近場に低山なく、雪が多いため、車も入れず、山の下見・偵察のスロー山行主体で山行記録も少なくなりそうです。

1/26,27 秩父 3 山 1/26(土)晴れ「二子山」9:45～13:35(3:50)坂本登山口より植林地・沢を経て股峠。まず東岳へ。雪の足跡は 1 人のみ。雪の急斜面を木・根等頼りに上り、岩の急斜面・トラバースは付いている鎖を頼りに岩峰の険しさを確認しながら尾根へ。岩はナイフのような岩もあり、荒々しい。東岳山頂は眺め良いが冬の強風もあり、すぐ下山。慎重に確認しながら峠へ。対の西岳も雪あり、上級コースを断念し一般コースに行く。深雪と急斜面に苦勞。鎖等に助けられゆっくり上る。尾根に出るとすぐ西岳山頂。三角点あり、両神山等山々の眺め、陽光楽しみ、下りも更に慎重に歩いて戻る。「諏訪山」13:55～16:15(2:20)登山口判らず、志賀坂トンネルの林道口より植林を上り尾根に出て後は、雪の遊歩道歩き。尾根コース・谷コース分岐より少し行くと三角点と小さな社の山頂。両神山が目の前で迫力あり、雪模様となりすぐ来た道に戻る。1/27(日)晴れ「叶山」7:55～13:15(5:20)立入禁止の鉾山の山。叶山鉾山白水ズイ道トンネル前のスペースに駐車。取りあえず山の見えるところまでと沢の雪跡を辿り堰堤を幾つか越え最後より青テープを目安に進むが、標識は急坂を進み境界の目印の様。止むなく雪の急斜面を慎重にトラバースして急な尾根に取り付く。雪と急斜面のため、木や根を掴みつつ四足で進む。やせ尾根に息を潜めて一步一步慎重に進む。ガレ場を登ると工事中の林道に出会う。上に赤テープあり、ガレ場を慎重に登っていく。尾根の岩場に出ると眺め良く、上へ上へと急で尖った岩場を進む。反対側に林道を経て叶山鉾山が見える。今いるところは昨日の西岳への尾根続きの様。これ以上上れないところで引き返しビューポイントで叶山を撮り、林道へ戻る。林道から叶山が尾根で続いているようでとりあえず近くまでと林道を進む。二子山林道の通行止め地点より尾根の側のそま道をピンクと青のテープに導かれ少し進むと叶山鉾山のピークと思われるところまで行く。何も表示なく、すぐ来た道に戻る。やせ尾根の急な下りは、軽アイゼンを付けて慎重に下る。駐車場近くの絶壁の下から湧き出す水の滝の流れを楽しむ。ピンつき長靴の足元が切れたため、今回はここまで。

2/2,3 秩父 3 山晴れ 2/2(土)「父不見山」9:50～11:50(2:00)杉ノ峠口より植林地を進み峠に出て尾根伝いに進むと三角点のある山頂。南は植林地で北側は、樹林越しに上州等山々の眺めあり。積雪 15cm。尾根を戻る途中この時期に珍しく 4 人のパーティーに会う。峠より向かいの山(大久保山)まで行き伐採地あとの雪のない急斜面を林道へ下り戻る。「笠丸山」13:35～15:10(1:35)住居附登山口より往復。積雪あり少ないところを選びながら尾根伝いに進み、急斜面を登ると神社。尾根伝いに進むと笠丸山山頂。360 度のパノラマで両神山系等の眺め抜群。岩山で南・西は絶壁。来た雪道を慎重に下る。2/3(日)「南天山」7:50～12:10(4:20)鎌倉沢登山口より遊歩道の沢歩き。雪だまりに足を取られながら、トラバースし、木橋を幾つか渡り、終点より植林地を進むと尾根に出て岩岩を登ると南天山山頂。天候よく、山々の眺望を楽しみ、向

かい山を目指す。鞍部より遊歩道を進み尾根に出てさらに登ると表示のない 1538m峰。展望少しで、登ってきた尾根コースに戻らず、谷コースを軽快に下り戻る。その後近くの山の登山口偵察。勤続祝いで来週は沖縄・石垣の山々に行ってきます。次回報告記を楽しみに。

2/9～2/11 石垣島・沖縄本島 4 山 2/9(土) 石垣 雨「フ海於茂登岳」12:50～19:05(6:15) 小雨で登山口の知花食堂で昼食時地元の人にこの天候では入らない方が良いと忠告されたが、時間の関係で已む無く道奥の登山口より入山。雨で視界なく、急坂は滑る。テープを目安に進むが、亜熱帯のジャングル歩きに、目印を落とすと藪漕ぎ。雨のため手袋つけず、山道に出会うまでハラハラ。道を進むが、沢は行き方不明で手間取る。それでも道らしきを探して、行ったり来たり一瞬見えた頂を目指し藪と体当たりしながら迂回して何とか山頂。新三角点まで行くが視界なし。下りも来た道に戻るが、迂回路がわからず、方向感覚も磁石もさっぱり不明。彷徨するうち大きな岩を見つけよじ登り、海の方角を再確認。その方向を目指す、谷・尾根・藪続きでまた方向感覚麻痺。体力も消耗。ビバークしたいが、軽身で何もなし。時間がいつの間にか過ぎ、再度海の見える方向の尾根へと進む。偶然登山道らしき道に出て、テープも確認。勢い込んで進むがまたも沢で目印途切れる。方々探したがわからず、下流へ進むとテープはないが道らしきとこに出て夢中で進む。テープも現れ、海の音も聞こえ、一安心。日没を気にしながらも、淡々と進む。沢を渡り林道から県道に出て、現在地は入り口かなり西へ来てしまった様子。暗くなり田植えのされた田のカエルの声を聞きながら無事戻る。ホテル着後スパッツに5匹の蛭を確認。戻れて本当によかった。両手は傷だらけで腫れぼったい。2/10(日)「於茂登岳」晴れ 8:45～10:50(2:05) 沖縄県で一番高い山標高 525.8m。舗装され整備された登山道をゆっくり進み、昨日の雨で濡れた草を掻き分け山頂。春風・陽光・西表島・昨日のフ海於茂登等 360 度の展望を楽しみ下山。近くの岩峰の(野底岳)山頂で賑やかな若人・ファミリーの歓声を聞き、石垣を後にした。沖縄本島 2/11(月)曇り雨「与那覇岳」7:15～8:55(1:40) 小雨登山口より林道・尾根を進み、竹林の中の視界のない一等三角点山頂。下りはマングースの捕獲罠、林層を観察しながら戻る。「嘉津宇岳」雨 10:30～11:30(1:00) 登山口より雨の中軽身で滑る岩に注意しながら山頂へ。ギザギザの岩山で視界なく風あり、近くの山へ行けず戻る。観光等で過ごし雨の止んだ夕方より一気に岩が濡れて滑る 3 山(古巣岳、三角山、安和岳)を周回し薄暮に戻る。今回の遠征はここまで。冬の天気はこんなものと地元の人。次は西表だが、かなり手強そう。

2/16(土) 奥秩父 1 山「赤岩岳」12:20～16:25(4:05) 晴れニッチツ鉦山側より、廃住居跡・植林地・広い広葉樹の森を経て赤岩峠。途中地元の写真家に山のアプローチを教えてもらう。北側をトラバースし岩の間の雪の急坂を登り尾根へ。裸の岩に雪が付いてる急斜面の岩岩が 10m強続く。3 点確保で慎重に越すと後は雪の急斜面をひたすら進み念願の山頂。陽光・青空・近くの大ナゲシ・山々の展望良い。積雪 20cm。スリップに注意し慎重に峠まで下り、時間に余裕あり、向かいの大ナゲシに向かう。尾根伝いに進み、柔らかな深雪を楽しみながら山頂下へ。ここも岩山でロープ・鎖に助けられながら慎重に進み山頂直下は何もない岩の急斜面。3 点確保で三等三角点の(大ナゲシ)山頂。360 度の展望抜群。来た道を峠を経て雪を楽しみながら下山。2/17(日) 西上州 2 山「桧沢岳」7:40～9:35(1:55) 晴れ大森橋口より往復。車の温度計マイナス 7 度の中、完全防備で林道・人家の間を抜け、テープに助けられ植林地を淡々と進み、尾根伝いに進む。交差した山頂尾根を東に登ると祠あり、先は通行止め。西側に向かうが、上り口からロープを頼りに絶壁の岩をトラバースし、雪の急坂を着実に進むとなだらかな山頂。三角点・朝日・冷たいそよ風・静寂に満足して(積雪 20cm)、慎重にコルに戻り、雪すべりを楽しみながら下山。「立岩」10:35～12:55(2:20) 晴れ 線ノ滝登山口より往復。植林地を案内板、テープ、雪の足跡を目安に進み、鹿狩りの人に足跡の方向を教えてもらい、岩の間の急斜面のガレバを慎重に登る。上は岸壁で進めず、右側の絶壁に階段上の

岩と大きな鎖が付いており、鎖を頼りに雪の岩を滑らないよう進む。程なく山頂に続く尾根に出る。深雪となるも、先人の足跡を頼りに進み、鎖のあり急斜面を登るとすぐ山頂。西側は絶壁で、上州の山々(武尊など)の展望よく、陽光を楽しむ。(積雪 40cm)下りは、岩岩は慎重に進み、岩場を過ぎると雪滑りで遊びながら下山。両日とも天気良く、奥秩父・西上州の岩峰は雪もあり怖い、下の雪滑り楽しむ山歩きは続く。

大遠征あり、途中の可能なところに行く。2/23(土)奥三河 晴れ「出来山」10:50~13:35(2:45)段戸湖口より往復。県道沿いだが雪のため、車で坂の上り下りが厳しい奥地。行きに苦労。帰りは除雪され助る。雪の駐車場の出口近くに止め、林道歩きが続く。牛渡橋より深雪の林道を登り、途中左に曲がり進むと林道終点が山頂。案内版に感謝。一等三角点だが、樹林の中で展望今一つ。標高差少ないハイコース。冬型で風の強い天候だが、2組の夫婦に会う。積雪 15cm。その後紀伊半島台高山脈に移動し例会に参加。伊勢辻を目指す。深雪で進路進まず、途中まで行き引き返しのパターンだが、一人偵察に尾根に出て暴走し、尾根伝いに進むと登山道と合流。深雪でズボンを濡らしながらメインの伊勢辻を経て(伊勢辻山)山頂。冬型の曇り空だが、国見・薊が遠望でき、なだらかな山頂。この時期の雪山に満足して急ぎ下る。積雪 50cm。上ってきた尾根と登山道の出会いでメンバーと合流して下山。9:30~16:20(6:50)例会のリーダーに感謝。

3/2,3/3 西上州 4 山 3/2(土)晴れ「四ツ又山」山頂 12:55「鹿岳」同 14:10 県道沿いの空きスペースに駐車し四ツ又登山口より周回。11:30~15:15(3:45)植林地を経て尾根に出て反対側のピークまで行き四ツ又の山容を確認し大天狗峠まで戻り、尾根伝いに進むと2等三角点の山頂。武尊・妙義等の山々の眺め良し。8度、湿度 42%。尾根伝いに4つの峰を越え、鞍部を経て岩峰の鹿岳へ。急な岩場を慎重に上り、梯子・ロープに助けられながら二ツ岳山頂(鹿岳)山頂からの眺め良し。絶壁の山頂。下りに分岐より一ツ岳を登り展望を楽しみ、春うららの中戻る。3/3(日)晴れ「烏帽子岳」6:55~9:15(2:20)林道が凍り滑る中登山口よりテープと足跡を目安に沢伝いに登り、分岐で雪の急斜面を慎重に上り尾根へ。ピークを目指し「マル」まで行くと方向が不明。北側の少し低いところに岩峰あり、人もおり、そちらが山頂の様子で、尾根を分岐まで下り、急坂をロープ等に助けられながら上ると烏帽子山頂(-4度、湿度 64%)。先行の人と山談義。その方は奥まで入る予定とのこと。上州の山山の展望良し。風強くすぐ下山。コルより急なガレバをロープを頼りにゆっくり下り戻る。すぐ向かいの三ツ岳を目指す。植林地を過ぎ岩のガレバを過ぎ尾根に出てやせ尾根を経て少し行くと(三ツ岳)山頂。三角点と展望を楽しみ下山。「小沢岳」11:15~13:25(2:10)晴れ雪の林道を進むと峠で登山道。脇に林道ある中、植林地を経て尾根を進み、急坂を上ると小沢岳山頂(9度、湿度 48%)。三角点あり、上州の山々の眺めを堪能し、西側の岩峰の絶壁を確認して下山。ファミリーコース。これで一応の区切りか。4月より異動で故郷の福島に戻るため。あと1回上州歩きたいが、当面引越し等多忙で今月はあと何日行けるかの状況。今度は関西からさらに離れて例会参加も少なくなると思います。悪しからず

3/10(日)西上州2山晴れ「物語山」7:25~10:25(3:00)サンスポ駐車場より林道歩き。終点近くで山入り。杉の植林地を経て、急なガレバを上ると尾根。さらに進むと物語山山頂。先行の夫婦と挨拶。三角点・樹林の中で、強風下、妙義等山々を眺め下山。尾根鞍部より西峰を登り、山々が岩峰であることを確認して戻る。「大桁山」10:50~11:50(1:00)西口の駐車場より案内板を頼りに杉植林地の林道歩き。急坂・整備された遊歩道を経て山頂。三角点あるハイクノ山。天候が急変し嵐の様相。春霞で展望今一つ。小雨がぱらつき、早々に下山。車半年点検のためここまで。前日は風邪等で大休養。

3/16(土)西上州 2 山晴れ風強し 11:50~17:00(5:10)天丸橋より周回。「天丸山」山頂 13:25「帳付山」同 14:40、出発の遅れと林道の落石除去で遅めの山入り。沢筋をアイスバーン等気にしながらテープ・雪上の足跡を目安に進む。沢の滝状の所は、迂回し難なく進む。沢から尾根に取り付き、大山の分岐を経て尾根に出て、ピークが(倉門山)。檜の樹林の中、陽光心地よし。尾根を進み、分岐より北に進み鞍部より岩峰の急斜面をロープを頼りにせず、慎重に登ると天丸山頂。山々の展望を楽しみ、尾根分岐まで戻りさらに奥に進む。やせ尾根の岩岩の峰をいくつか越え、急坂を上り、なだらかな峰を進むと帳付山頂。来た道以外絶壁。展望を楽しみ来た尾根をゆっくり戻る。倉門を越え、途中残してきた岩峰の大山へ。ロープ等あるが難なく(大山)山頂。展望楽しみ、春風を感じて来た道をゆっくり戻る。4 山とも山頂は雪なし。天丸は登りがいのある岩峰。3/17(日)晴れ関西へ大遠征。例会で箕面の二等三角点の(六個山)へ登り、下山後総会に参加。

3/20(水)曇り西上州 1 山「鍬柄岳」14:55~16:00(1:05)故郷の墓参り後のハイク。案内表示より林道を進み、神社・植林地を経て岩峰下。下山の 2 人に様子を聞いて反時計回りで螺旋状に鎖の続く岩に登ると間もなく山頂。先日登った大桁等山々と街の眺めよし。19 度、湿度 60%。絶壁の岩峰を慎重に下り登山口に戻る。3/23,24 は法事と車の免許更新で山入りできず。次の週末も引越して山入りできるか怪しい。次回以降は福島からの報告予定。

4/7(日)山形 1 山「富神山」曇り小雨 12:10~13:00(0:50)里山ハイク歩き。松と広葉樹の山。頂上より山形市内の展望よく、蔵王連峰は雲の中。三角点あり。引越し・咳も治まったようで、久しぶりに山歩きに復帰。別途登山口下見したが、まだ東北の山は雪多く、急がずゆっくり歩くしかなさそう。

4/13,14 八甲田連峰等4山 4/13(土)曇り「硫黄岳(ヤブ山)」10:00~12:10(2:10)傘松峠奥より山スキーにて往復。久しぶりの山スキー。山並みの鞍部より(石倉岳)を往復し、向かいの急斜面をゆっくり登り山頂。奥に若人が強風の中休憩中。大岳等の展望よいが、風強いため、すぐシールを取り、一気に登山口まで下る。「前嶽(ヤブ山)」12:50~15:20(2:30)ロープウェイで山頂駅まで行き、スキーで山スキーの銅像コースを辿る。谷に下り、登り返し鞍部まで進むとすぐ山頂下。程なく山頂。風強いが、青森湾、山々の眺めよし。シールを外し谷まで下り、シールを着けず山頂駅へ。あとは樹林コースのスキーを大いに楽しみながら下山。4/14(日)晴れ津軽「阿闍羅山」6:40~7:20(0:40)大鱈スキー場跡、ゴルフ場口まで車で入り、目と鼻の先が山頂。時間を気にしつつツボ足で残雪上を山頂へ。神社あり、街の展望良い山頂で、岩木山は雲隠れ、すぐ戻る。南八甲田「横岳(ヤブ山)」8:50~11:20(2:30)峠の蕎麦屋に15分遅れで外さん、島さんと合流。先行隊のトレースを頼りに山スキーで山入り。ブナの森を経て強風のなだらかな峰へ。強風に耐えながら山頂。八甲田連峰の眺め最高。シールを外し雪を楽しむように滑ってあつと云う間に下山。蕎麦屋で昼食後解散。盛岡から駆けつけてくれた外・島さんに感謝。

GW前半 NO1、4/30 休み取り充実の 4 日間。4/27、28(土・日)群馬北部 5 山「小出俣山」山頂 9:30「阿能川岳」同 11:10 両方ともヤブ山でこの時期に登る。川古温泉手前の林道口より周回。6:00~13:40(7:40)小雨後曇り。小雨の中、沢沿いの林道を淡々と進み千曲平橋過ぎて山入り。目印ないが地形図上取り合えず上へ。林業用かテープあり、新雪の小藪を登り、残雪の出た檜林で一息。、強風で雪の舞う中防寒準備し大岩をトバースし急坂を強風に耐え進むと小出俣山頂。強風で視界なし。すぐ来たルートと降り口を確認し尾根伝いに阿能川へ。視界が戻り、シヨトカットをしつつ急坂を上り、平らな丘を進むと標識のある阿能川岳山頂。ここも強風。視界なし。尾根伝いに(三岩山)を経て視界の確認できた大幅シヨトカットで沢へ下

る。雪を広い、雪滑りを楽しみ、なだらかな沢を下り、川を渡り林道に出てしばらく歩くと出発した橋に戻る。後は、日差し・沢を楽しみながら戻る。ショートカットで体力と時間を確保。「吾妻耶山」14:15～18:15(4:00)仏岩ポケットパーク駐車場より周回。ハイクコース。仏岩を経て急坂を登り進むと山頂。大きな祠 3 つあり。視界なく残念。さらに奥の三角点のある(大峰山)まで縦走し戻る。4/28 曇り「三峰山」6:30～7:35(1:05)林道奥の登山口より往復。ハイクコースで強風・小雪・朝日と目まぐるしく変わる天候。三角点のある山頂は雲で視界なし。「鹿俣山」9:25～10:25(1:00)たんばらスキー場が営業しており、リフト1,2を乗継ぎ、山頂近くへ。新雪と強風の中尾根伝いに進むと平坦な山頂。標識あり。来たルートに戻り、第1リフトは、乗れずスキー場の端を歩き第2リフトを利用し戻る。明日天候が回復との情報を得、下見の南会津を経て白神へ大鸚鵡返し。NO2 へ続く。

GW前半 NO2 4/29(月)晴れ「向白神岳」ヤブ山 6:35～15:55(9:20)白神岳登山口より曇りで視界不良な中、山腹をトラバースし、残雪は先人の跡を頼りに尾根へ。マテ山を探したが不明。昨晚避難小屋に泊まった地元の団体と会い山の状況を確認。一路白神岳を目指す。途中天候が回復し青空・陽光で心が浮き立つ。軽快に白神岳山頂へ。白神山系の全貌を確認。かなり奥深そう。避難小屋より、早朝出発した2人を追って行き先の全貌がハッキリと見える尾根筋を進む。途中急な下りで先発の2人に会い情報交換。ワカンが必要とのこと。やわ雪にハマリつつ淡々と幾山か越え、強風の中、念願の向白神岳山頂。360度のパノラマ・岩木山も春霞の中見れて大満足。来たルートをさらに軟くなった雪にハマリながら戻り、急斜面手前で珍しく昼食休憩で一息入れる。避難小屋を経て下りは軽快に進み、先人の跡を進むと登り時確認できなかった標識と小山。その小山が三角点・標識のある(マテ山)。これで心置きなく下れると先人の足跡に続くが、跡が不明となり急斜面の残雪の谷があり、一気に雪滑りを楽しみつつ駆け下る。何とか登山道と出会い戻る。先人の2人に登山口より下の林道で会い山話。矢巾と八戸から来て昨晚から天候回復し今朝から天候良く3度目の挑戦で向白山山頂まで行けたとのこと。幸いの好天と残雪の多さからヤブ漕ぎなく向白神まで驚くほどの短時間で行って大満足。温泉で汗を流し、茂谷山を探したがルート間違いで一等三角点で電波塔の林立する(幟山)に薄暮に登る。4/30(火)宮城南部2山「フスベ山」山頂 14:30「蛤山」同 16:55天候は回復とのこと帰途途中の山探索へ。林道歩き長く敬遠していた山へ。10:55～18:10(7:15)旅行村先の林道通行止めより、小雨の中偵察のつもりで淡々と林道を進み、峠より蛤山の見当をつけさらに奥へ。分岐で上の行き止まりの林道でタイムロス。下の林道を進むが、使われていない林道らしく、残雪跡の木立の倒れ込みに笹の小藪と苦戦。雪を拾い、笹の薄いところを探し、何とかU字谷へ。先の林道は背丈以上の笹藪。薄いところを探しつつ斜面を見ると残雪あり、残雪を一気に上り尾根へ。尾根伝いに雪を拾い、カモシカの足跡等確認しながら軽快に進み三角点のあるフスベ山山頂。南蔵王の不忘山等の眺め良く、満足したルートショートカットしつつ戻り峠より蛤山のなだらかな樹林の中の標識を確認して林道に戻る。異常に天候を気にしながらの山行のGW前半。後半は自重しないと・・・

GW 後半 NO1 天候・残雪等の関係で近場7山 5/3(金)南会津1山「枯木山」8:15～17:30(9:15)晴れ、先週下見した田代への林道は少し奥まで進んだが、残雪で途中駐車。林道歩き、途中ショートカットし県境の峠。天気良く行き先が確認でき安心して進む。尾根筋を残雪と小藪掻き分け、尾根を幾つも越え、県境尾根より福島側に入り、枯木山頂。二等三角点、日光、那須、尾瀬連山等絶好の眺め。長躯で疲れて、ゆっくり遅めの昼食。戻りは雪上は滑りを楽しみ、来たルートを安全に戻る。ずーっと懸案だった奥深い藪山への思いが叶い小満足。5/4(土)宮城北部1山「みみずく山」9:30～17:35(8:05)曇り 残雪で通行不能の県道を歩き最上方面へは通行止めで行けず小高い樹林から山を眺め、山容を確認。中止を決断したはずが、足は山へ取り合えず偵察。雪面を一気に下り、林道をさらに下るが、林道が不明に。方向を確認しつつ

つ、2 度湿地と残雪の丘、笹小藪を経て別の林道終点。杉林を経て川を渡渉しさらに別の林道に会う。目の前の山を雪を拾い尾根へ。笹小藪の尾根を次の峰へ。残雪多く助かるが、山頂でなくさらに次の峰へ。その峰も山頂でなく、さらに奥が山頂の様子。残雪を拾い下るが、下は猛烈な笹藪。何とか最鞍部で雪を拾い、山頂直下までの急斜面は残雪を一気に登り、小藪を経てみみずく山頂。三角点あり、山々の眺めよし。戻りが不安のため、早々に下山。雪を拾い、2 峰経て目安のテープを回収し途中出会った林道を下ると湖へ。間違いに気づき、戻り、来たルートで渡渉し 2 つの湿地を越え林道へ。林道を進むと見覚えのある上り口。一安心し、元の出発点に戻り、行きに残した 4 等三角点の(箕ノ輪山)へ林業道・残雪を利用し寄り、下りは雪滑りを楽しみ、県道が無事戻る。ルート無案内ながら方向を確認の山行。藪山。2 日共誰にも会わず。

GW 後半 NO2 5/5(日)晴れ山形北部 2 山「熊ノ返山」やぶ山 6:20~8:30(2:10)杉ノ入集落より往復。用水路脇に駐車し林業のピンクテープ目安に農道・林道経て杉林の残雪歩き。沢伝いに雪を拾い、急斜面の残雪帯をあくせくしつつ進み、なだらかな尾根へ。ほとんど残雪で何なく熊ノ返山頂。山頂にピンクテープあり。朝日、山々の眺め最高。下りは雪滑り楽しみ一気に下る。山スキーに面白いところ。「伝説のハイカー」第 2 弾「弁慶山」10:25~18:25(8:00)晴れ 偵察のつもりが、ルートない藪山でアプローチが容易でない。西部林道 3 号橋で雪で車通行不可。林道歩き、途中遊歩道で時間ロスしつつ林道終点まで行く。川を渡渉し林道らしきを進むと小沢の十字交差。奥に渡り、林業のテープ頼りに一気に尾根を上がる。ヤセ尾根・小藪を経て植林の残雪を進むと待望の尾根。林業のテープ頼りに進むが、目指す山は深い谷の先。取りあえず残雪を拾いテープを目安に大きく U 字の尾根を大迂回する。蜜藪を避け、U 字奥の急坂手前で一息入れ一気に残雪の急斜面・尾根藪を過ぎ山頂かと思いきやさらにずーっと奥に山頂。何とか行けるかなと思ったが、ここからが大変。残雪ないヤセ尾根・小藪で両側絶壁を通らなければ行けない。慎重にゆっくり確実に進むが、2,3 度続き胃と腸が引きつる。山でストレスか。取りあえず進み、笹等の藪を越えて頂上に続く雪面に出て一安心。山頂から鳥海等の山々の眺めよし。一休みしすぐ下山。来た道を通るので、難所数箇所を淡々と通過し残雪を活用し、藪を極力避け、最初の尾根に出会ってテープを回収した時に大安堵。来た尾根、林道を経て明るいうちに無事戻る。「伝説のハイカー」第 3 弾のないことを祈る。5/6(月)晴れ山形北部 3 山「薬師山」5:35~6:30(0:55)R13 の鳥居より往復。ハイクで 1 等三角点。眺めよし。「竜馬山」6:30~8:55(2:25)林道雪で通行不可につき、近くの林道より入り、新たな植林地の急斜面・小藪尾根を進む。林業の刈払い尾根を経て急斜面へ。カモシカの先導で尾根を進むと、なんと昨日と同じヤセ尾根の両側絶壁がある。藪ほとんどないが慎重に進む。本体の尾根に合流し山頂へ。竜馬山は別名金山駒ヶ岳でファンクラブの標識と三角点あり、山々の眺望よい。来た道を慎重に下る。途中刈払いの所を一気に下り、林道・舗道を経て戻る。この地域はヤセ尾根が多い地質か? 「猿羽根山」晴れ 10:35 車で山頂へ。峠・地蔵あり。眺めよし。遊歩道散策。午後悪天でここまで。GW 天候悪く、白神山系には行けず、残念。次の週末か来年以降か。

5/10(勤続休暇)~11(土)白神山地 4 山「藤里駒ヶ岳」山頂 12:00、「小岳」同 15:55、「青鹿岳」同 18:10、「雁森岳」同 5:20 5:40~19:00(13:20)、3:30~17:00(13:30)「伝説のハイカー」第 3 弾。二ツ井からの県道が真名子で冬季通行止めのため、長い舗道歩き 3H 後雪のある林道をトラバースに注意し駒ヶ岳登山口へ計 4H。尾根を伝いに急坂登ると駒ヶ岳山頂。晴天、山々の展望良く、これから行く山の位置確認。急坂一気に下り登り返すと(冷水岳)。小岳を直線で狙い尾根を外し、残雪辿り沢まで下り登り返し。急坂を経て小岳山頂。雪面は亀裂多し。晴天の展望を楽しみ、今回のメイン青鹿へ。尾根筋進むが、アップダウンの連続と藪尾根に悩まされ、分岐の尾根を行き過ぎ、荷物でデポし空身で青鹿へ。急坂を一日の足の疲

れを引きずりつつ、念願の山頂。岩木山等眺め良く大満足。棒のようになった足腰ではデポ地まで戻るのがやっと。雪のない場所でツェルトと寝袋で就寝(19:40)。小雨のパラツキで 2:30 起床。ライト付け出発。尾根筋を進み、地図で位置確認しつつ、目指す雁森岳へ。山頂は、やせ尾根で小藪。遂に藪・長い距離のため、残雪期の今しか来れない奥深い山に昨日の好天気助けられ到達。大々満足。今日の天気は現在曇り。天気の崩れる前にルートのはわかる冷水近くへと急ぎ戻る。小岳からの戻りは、間違えた直線ルートより尾根ルートへ。予想外の藪、アップダウンとルートの長さに苦戦。雨が本降りになった時冷水岳へ。下って鞍部より湿原ルート取るが、駒入りのトイレ探しに苦労。後は、雨中、林道・長い舗道を経て無事戻る。5/12(日)男鹿半島 4 山「寒風山」車で山頂。二等三角点。晴れで下は雲の中。男鹿 3 山「本山」山頂 8:10、「真山」同 8:55、「毛無山」同 10:30 7:40~11:10(2:30) 双六林道奥の通行止めよりハイク。真山(天候曇り)以外は自衛隊基地内に三角点らしきを見て東北自然歩道等を散策。天候晴れ下は雲で見えず。今回はここまで。

5/18,19(土,日)山形西部 7 山 5/18 晴れ「姥ヶ岳」山頂 11:05「湯殿山」(ヤブ山)同 12:10、8:25~13:55(5:30)湯殿山神社まで駐車場より舗道歩き。御祓いしてもらい、素足での参拝・足湯につかる。御神体と反対側の雪面をトラバースしながら上手へ。雪崩等注意し反対側の湯殿山への無理のないコースを探し谷に下りて雪の急斜面を慎重に雪を拾い尾根へ。ここで地図の読み間違いに加え標高の高いところを目指してしまう。さっきよりは緩斜面で一気に山頂下。小藪を越えたところが、月山手前の姥ヶ岳で月山・湯殿山の眺めよくスキーヤーで大賑わい。月山は確認しただけで本来の目的の湯殿山へ。一気に雪面を下り、軟い雪の穴に注意しながら 2 山越えて、湯殿山頂。鶴岡からの登山教室の人々で(跳沢ルートから)ここも大賑わい。鳥海・朝日の山々の眺めを楽しみ、来たルートに戻り、雪滑りを楽しみつつ、慎重に下山。「湯ノ沢岳」15:25~18:35(3:10)堰堤の木橋手前に駐車し往復。林道歩きを経て尾根歩き。新緑のブナの眺めを楽しみつつ、やせ尾根は注意して縦走路尾根へ。後は、残雪に息を乱しながら湯ノ沢山頂。月山・朝日・鳥海の眺め最高。ゆっくり展望を堪能し来たルートを一気に戻る。今日一日かなり歩き、疲れ気味。5/19 曇り「金峯山」山頂 6:00「母狩山」同 7:55 5:30~10:05(4:35)神社口より整備された登山道を登ると金峯神社のある山頂。展望地で庄内の水田の眺め楽しむ。尾根伝いに淡々と進み、(鎧ヶ峰)を経て急坂を一気に上り母狩山頂。月山等眺め良いが霞む。残雪あり、虫多くすぐ退散し、来たルートを軽快に戻る。幾人かの登山者に会う。登山口の神社では教室の大勢の人々に遭遇。「熊野長峰」11:30~14:15(2:45)大谷貯水池駐車場よりハイク。池を通り、蛙の鳴き声を経て尾根を辿ると熊野長峰山頂。曇りだが、街の展望楽しむ。湿地で水芭蕉を見て、林道に出ると登山口の看板。捨て置けなく、山菜取りの地元の人にルートを確認し、なだらかな山、林道、急坂の登山道を経て(虚空蔵山)山頂へ。ここも、登山教室の人々で花盛り。お堂で拝み、湿原を経て戻る。「高館山」15:10 車で山頂へ。三角点は、表示棒のみと思いきや鉄管の蓋に三角点の表示。標石はこの下にあるのか。蓋開かずやむなく松林の展望のない広場を巡る。

5/25,26 晴れ時々曇り「伝説のハイカー第4弾」白神山系 3 山、秋田 4 山 5/25(土)「二ツ森」山頂 6:35「摩須賀岳(ヤブ山)」同 9:35「真瀬岳」同 12:25 6:00~14:40(8:40) 偶然二ツ森の登山口まで除雪され、通行止めゲートなく(帰りはゲートあり)残雪もあり、まずは、登山ルートのある二ツ森へ残雪・道を頼りに山頂。三角点・朝日・小鳥のさえずり良い。すぐ登山口の展望台まで戻り、今回メインの摩須賀岳へ。尾根伝いに進み、真瀬岳方面との尾根分岐より支尾根を残雪を拾いながら順調に3ピーク過ぎて約半分。残雪のあるルートを抱き二股尾根を右に急降下し上り返すと摩須賀直下。急斜面を一気に進み広く平らな摩須賀岳山頂。念願の山到達で大満足。白神の中心部にあたり、今春登った向白神・青鹿等白神全体と岩木山の眺めが抜群。晴天で至上の喜び。好事魔多しでここから欲張りすぎ。沢を挟み向かいに見える真瀬岳

は目と鼻の先と思ひ、雪を拾いつつ、摩須賀までなかったヤブを歩き、引き返したりで、アップダウンを繰り返す何とか沢に下るも、やせたガレバで滑り止め時左膝が、90度でハードル越える状態でピキと悲鳴。その後は気にしつつも、渡渉し急斜面の登り。氷の堅雪のところでは3m滑落し枯れ木でズボンに裂き、股に擦り傷。それでも何とか尾根をヤブ漕ぎしつつ真瀬への尾根へ出てすぐ真瀬直下まで進む。急斜面を滑らないよう進み、真瀬岳山頂。岩木山等眺めよいが、曇りで小雨ぱらつく。二ツ森へ摩須賀岳へ来たルートと沢を挟み平行した尾根を残雪を拾い進むが、アップダウンがややきつく、負傷した2箇所も気にしつつ、ただ、淡々と進む。尾根の分岐はやせ尾根のヤブだが、無難に進み来たコースに戻り安堵し無事、二ツ森登山口に戻る。展望台から尾根伝いに周回したコースは、道のない規制区域と地図を眺めて改めて気づく。残雪と好天に感謝。無理した代償大きい。「茂谷山」18:00~18:40(0:40)鳥居より往復。山頂は展望良い4等三角点。左足を引きずるようにして何とか登る。夜は寝返りできない程痛む。5/26(日)晴れ「房住山」5:30~8:05(2:35)偶然山開きの日で帰りに行事に遭遇。登山口より尾根伝いに神社・地蔵群等を経て展望台の大きい山頂。2等三角点・晴天で展望良い。帰りは途中より林道に出て戻る。左膝は相変わらず。「森山」8:55~10:05(1:10)登山口の表示の林道口より急坂を上り、鐘と電波等の峰。さらに急坂を下り登り返すと森山山頂。一等三角点で街等の眺めよい。来た道をロープ等に助けられながら戻る。「真人山」13:40~15:15(1:35)真人公園より遊歩道から三吉神社で展望を楽しみ、奥の三角点の山頂。樹林の中で展望なし。左膝は限界で今回はよく頑張りここまで。あとは当面休養か？

5/31~6/2(勤続休暇ラスト)5/31(金)晴れ、白神山系・秋田北2山「尾太岳(ヤブ山)」7:55~14:45(6:50)残雪期シリーズラスト。R317 通行止めより林道歩き。鉱山廃棄物処理事業所に届を出し、施設の奥の急な階段より山入り。道らしきところ・テープ等に助けられ高度上げるが、ヤブ現れ、薄いところを選び進む。竹の密集を超え、残雪にありつくが、主峰の尾根分岐は、雪少ない。道らしき所と残雪を拾い、頂上近くまで続く残雪に安堵。ただ、頂上周りは猛烈なヤブ。いざ進むが、左膝をかばい思うように行かないが、何とか、三角点のある山頂へ。好天で、白神連峰、岩木山等眺め最高。下りは、尾根を間違わないよう進むが、目先に追われ、支尾根の急斜面へ。試行錯誤し主尾根の方向を確認し、トラバースして無事来た急斜面を下って戻る。もう少し雪があれば良かったが来るのが遅すぎた。「縫戸山」17:25~18:55(1:30)地元の山歩きの人に登山口情報を教えてもらい、道間違いをしながら、陣内林道の3合目登山口へ。昨年設置された、矢立小の合目表示を励みに、つづら折れの道を軽快に進み、縫戸山頂。三角点あり街の眺め等良い。日没前に戻る。6/1(土)晴れ秋田大館3山「田代岳」5:20~10:30(5:10)林道最奥の荒沢コースを往復。登山者誰にも会わず。溪流歩きを楽しみ、平坦な尾根をブナの大木群を眺めながら合目表示を励みに進むと、残雪現れ、登山道を探しながら、一気に9合目湿原。急斜面を進むと神社のある田代岳山頂。白神山系・岩木等360度の大大パノラマ。先の雷岳目指したが、谷とヤブっぽい様子で途中引き返す。9合目の湿原を楽しみ、来たルートで、沢歩きを楽しみ戻る。林道が深い山。「鳳凰山」12:30~14:45(2:15)林道の登山口表示より、急斜面と夏祭りの大文字焼きの準備場面を横切り、急斜面を上ると4等三角点の鳳凰山頂。展望よく、岐路は疲労からか眠りかけながら戻る。「羽保屋山」15:40~18:00(2:20)登山案内の登山口より吊り橋、林道を経て杉、カラ松の林、急斜面のつづら折れを進み、前岳を経て羽保屋山山頂。古い祠、三角点あり、山々の眺め良い。一休みしダブル杖を活用し、膝への負担少なく戻る。リハビリ山行2日目終了。6/2(日)3県境2山、岩手北1山「四角岳」山頂 6:20「中岳」同 6:50 5:00~8:40(3:40)曇り、花木林道登山口より、林道歩き後山入り。笹の多い登山道でかき分け進むと、平坦な北東北3県境の四角岳山頂。平坦な山頂で各県より登山口あり。雲で視界なし。さらに尾根を進み、先行した竹の子取りの人のクマ除けのブザー音に驚きつつ、急斜面を登ると一等三角点の中岳山頂。視界なく残念。来た道を淡々と戻る。この竹の子は市場の評価高いようで、今日も7人位と会う。「稲庭岳」10:55~12:35(1:40)稲庭キャンプ場より

ブナ林コース。最初から道間違い水源地より深いヤブへ。竹の子取りの人がおり、アドバイス受け、しっかりした登山道へ出てすぐ山頂。一等三角点で岩手山等眺め良く、晴天。風心地よい。下りは、ブナ林コースを辿り、竹の子をとり、戻る。左膝内側の腱を伸ばした痛みはストック・杖を利用し何とか、湿布・サポーターでカバーしたが、リハビリ状態。柔軟な動きはまだ先になる。駆け足の残雪シリーズ終了。

山形北6山 6/8,9(土、日)曇り、リハビリ歩き 6/8「飯盛山」10:50～11:20(0:30)酒田の公園駐車場より散策。山頂は、一等三角点で街、最上川の眺めよい。土門拳記念館に立ち寄る。「経ヶ蔵山」14:25～15:50(1:25)円能寺登山口より往復。林道進み、登山口より、急坂登り、整備された登山道に助けられ、すぐ山頂。展望台からの眺めよい。下りは胎内くぐりを2回し、トラバースして戻る。「外山」16:30～16:55(0:25)眺海の森を散策。街の眺め等よい。6/9「胎蔵山」5:30～7:55(2:25)元田沢の登山口わからず、中里口も不明で一旦引き返し中里口より山入り。杉林を経て中の宮、さらに進むとブナの大木さらに進むと尾根筋で、少し行くと奥ノ院と山頂。二等三角点、雲で視界なし。下りは、霧のブナ林楽しみ戻る。「鳳来山(山頂はヤブ)」9:15～11:30(2:15)鳥海支尾根の山。旅行村口より、案内表示頼りに、横堂尾根。尾根を下り、標識どうり進むが6/10より標識なく、道もなくなり、尾根伝いに登るが、ズボンも濡れて、残雪を経て尾根藪に入り、ピークを過ぎて藪なくなる。ピークに戻り、探索。藪の中に二等三角点あり。虫多くすぐ尾根伝いに元の登山道に出て戻る。案内板に振り回され、山頂は横堂よりすぐ。「大高根山」16:30～17:15(0:45)古道コースより往復。天気よく、杉林・急坂を汗をかきつつ登り、別道と合流するとすぐ大高根山頂。2等三角点で街、川、山々の展望よい。来た道を慎重に下山。

6/15,16岩手西部2山 女神から和賀縦走にトライ。6/15(土)「女神山」山頂8:15「真昼岳」同10:45 6/16 6:40～6/16 8:35(総歩行時間 13:10)曇り時々雨 6/16 曇り 外さん、駒さんの協力を得て、女神～高下までの縦走着手。高下口に車をデポし女神の白糸の滝登山口より、重い荷物で山入り。水場ないため、普段担がない水を2日分持ちゆつくりと女神山頂。曇りで視界少ない。尾根伝いにアップダウンを繰り返し、残雪等で道が不明瞭ながらも兎平を経て真昼へ。真昼山頂近くで露と小雨のため、雨具付け真昼山頂。雲等で視界なく空いた神社小屋で昼食し一息。尾根伝いに(音動岳、北ノ股岳)を経て峰越林道。時間と天候を考えて取りあえず3.5キロ先の鹿ノ子山目指すが、道が不明瞭になり、雪溪のある溝地と下りの登山道で先への方向が不明となる。已む無く急斜面を直進し藪突入。少し行くと駆り払いあり進むが、下り一方道不明。已む無く駒さんのGPSを頼りに一旦尾根上に戻り、再度藪突入。ずっと進むと林道に出会い、ルートミスを悟り、元の峰越口より来た道を真昼の神社小屋へ戻る。駒さん用意の酒で小宴会し就寝。翌朝曇りの中、来たルートに戻り女神山頂へ。山頂は視界あり、深い山を実感。下りは、新緑で水を得てすがすがしい見事なブナ林と滝を楽しみながら戻る。途中、老若男女の多くの登山者に出会い、人気の山を実感。今回は、縦走が空振り。外さんはリベンジに燃えており、ルートと登山道の状況を再確認し、縦走を繋げたい。

6/22(土)朝日連峰2山曇り「御影森山」山頂11:40、「平岩山」同13:15 8:50～17:20(8:30)朝日鉱泉口より往復。朝日岳中央は雲隠れする中、2度吊り橋を渡り尾根に取り付き急坂を進み、湧き水のところで一休み。それからまもなく(上倉山)山頂。大きな松の木あり。尾根伝いに一旦下り、淡々と進みピンクの小さなゆりが咲く中を御影森山頂へ。三等三角点あり、これから進む尾根筋、残雪を抱く連峰の裾野等見え満足。さらに小さなアップダウンの尾根筋を進み、(大沢峰)を経て一旦下り、しばらく上ると霧と風の中の平岩山山頂。途中チングルマ、チドリ等を見かけた。山頂は三角点あるも視界なし。昼食後天候も小雨交じりで今一つで、已む無く大朝日は諦め、来た道に戻る。下りは、ブナ林と溪流を楽しみながら一気に戻る。

6/23(日)山形中央3山「頭殿山」5:55～9:05(3:10)晴れ 少々荒れた林道を車で進み、キャンプ場跡に駐車し、林道歩き。間もなく登山口で山入り。植林地を進み尾根に出て枝尾根を経て三角点のある(尖山)で街等の展望を楽しむ。尾根分岐に戻り、さらに奥に進む。植林地・ブナ林を経て、山道の分岐を上へ登り、坂を進むと二等三角点の頭殿山山頂。朝日連峰は裾野の残雪は見えるが本体は雲隠れ。風が心地よい。来た道を淡々と戻る。「葉山(長井)」9:55～15:25(5:30)公園登山口より入る。播鉢状の溝地を進み、時折立派なブナを見かけるが、堀を進む兵隊の気持ちでほとんどが視界のない溝を登り進むため気が沈む。なだらかな頂上付近でも樹林で視界今一つ。すぐに小屋・神社のある葉山山頂。さらに奥へ進み、奥の院で昨日見れなかった大朝日等の朝日連峰のパノラマと残雪の多い飯豊連峰の裾野まで見れて満足。帰りは広い湿地で珍しいトンボを見かけ、小屋で地元の夫婦に道を教えてもらう。下りは、溝地を歩きたくない心理のためか、道を間違え、ブナ林に見とれ、広く歩きやすい道をルンルンと下り、道間違いに気づくが、気にせず、沢・谷等つづら折れの道を一気に下り農免道路。道間違いを少し後悔しつつアスファルト道歩き1時間で駐車した公園登山口に戻れた。「白鷹山」16:20～17:10(0:50)南側神社参道の舗道を車で一気に登り、湧き水地に駐車し草の生い茂る階段・道から石段を登り白鷹山頂。神社あり、街並みの眺め良い。来たルートに戻り、地元の人に帰り道を教えてもらい、赤湯温泉の入湯料100円の銭湯(あづま湯)で一汗流す。これで数えた山1494山。1500山に王手か・次回に期待

「1500山」無事通過。6/28(金)夏休み十和田2山「十和利山」11:10～12:55(1:45)

迷ヶ平より往復。曇りで視界きかないがキャンプ場から東口コースへ。ブナ林を進み平らな十和利山山頂。笹多い静かな山。平日で誰にも会わず下山。「十和田山」13:50～16:35(2:45)宇樽部より地元の方に登山口等アドバイスもらい入山。刈り払わないため、下の登山道はしっかりしているが、上は笹等が覆う状態。中盤以降笹払いと潜り多くなり、溝地等経て灌木の中の三角点のある山頂。雲で十和田湖見えず残念。下りは大きなブナ・ナラ等の広葉樹の大木を楽しみながら戻る。6/29(土)曇り時々晴れ「大駒ヶ岳」山頂 8:50「三ツ岳」同 9:25 7:20～11:30(4:10)登山口駐車場よりアスファルト道、林道を横切り、ブナ林の尾根へ。急坂で日本一のダケカンバを経て大駒ヶ岳山頂。八甲田連峰等眺めよい。先行の東京から来た人と山話。日差し心地よい。鞍部へ下り上り返すと一等三角点の三ツ岳山頂。雲間から山々の眺め良い。先行の人は十和利へ縦走。天候もよいため、道がやや不明瞭なルートだが、後に続き途中追い越し、少々藪気味の山道を進む。なだらかな(十文字山)を経てアグリ峠。道はわかるが、藪っぽい道を進み、沢に出ると間違っただけで登ってくる人に出会い、登山道を説明し安心して一緒に戻る。途中レンタカーの人も林道が入れると間違っただけで入ったため、登山道を説明。「白地山」12:40～17:05(4:25)1500山目。鉛山園地より標高差少ないが長駆。下りの大勢のパーティーにこれからと心配されつつ、展望所。視界なく残念。平坦な道からワタスゲ等の湿原を経て平らで広い一等三角点の白地山山頂。思わずバンザイ。青空も覗き、静かな心地よい山頂。来たルートを着実に戻るが、雨もパラツキ、霧が深くなり、帰りは少し長く感じたが無事戻る。6/30(日)秋田北2山晴れ「竜ヶ森」6:50～8:10(1:20)やや荒れた林道を車で進むのに疲れた頃、寒沢登山口。きれいに刈り払いされた広い登山道をブナ林を楽しみながら、坂を進み、尾根へ出て別ルートと合流して間もなく山頂。広く整備された4ルートもある2等三角点の山。展望台から森吉山等の眺め良く、整備された避難小屋でノートに1501山目と記載し、ブナ林を堪能しながら大満足で下山。「姫ヶ岳」10:40～12:50(2:10)観光案内所で山の状況と簡易な地図もらい、林道から登山口を探しながら進むが、表示なく、地図を頼りに進む。通行止めの比内沢口より林道を歩くとすぐ案内表示。林道歩きあるが、一安心し淡々と林道歩き。登山口より刈り払いがなく雑草が伸びる登山道を道を確認しながら、慎重に進み、尾根の縦走路を経て進むと祠がある一等三角点の姫ヶ岳山頂。森吉山等の眺め良い。奥に縦走路を少し進むと、岩々と絶壁の山であることを確認。天候よくルンルン気分で行く。森吉山のゴンドラ口までドライブし帰福。

梅雨前線がかかり、行けるところへ。7/5(土)曇りのち雨 西会津2山「土埋山」9:55～11:00(1:05)津川cc
途中の道探しに時間かかり一等三角点案内表示より山入り。杉・ブナ林の尾根を経てすぐ山頂。一等三角
点で山々の眺めよいが、上部は雲隠れ。下りはあつという間に戻る。天候悪化の気配。「本名御神楽」13:
55～17:45(3:50)林道終点より、御神楽の案内表示で進む。沢沿いに滝・溪流を眺め、背丈以上の雑草、
八丁洗板の広く長い平板な岩の溪流等を楽しみ、急坂を経て尾根に取りつく。雨が降り出し、鎖の岩場は
慎重に登り、本降りの中、避難小屋へ。雨具の上を着て雨中を本名御神楽山頂。降りがひどく、先の1度行
っている御神楽は止めて小屋に戻る。雨具のしたも履き、下る。岩場は慎重に、あとは小止みになり、淡々
とブナの大木・溪流・滝を楽しみつつ戻る。夕方から本降りに。7/7(日)朝日1山「天狗角力取山」8:20～
15:15(6:55)大井沢口より周回。雨が小降りになるまで小一時間待機。雨やみの中林道歩き。すぐ雨が降り
出し、樹林の登山道に入り一息。ブナ等の樹林が豊かで、なだらかな歩き。尾根より、トラバースして雪溪、
水芭蕉等花が咲く湿地を経て尾根へ。平坦な奥が目指すところで、粟畑分岐より尾根伝いに丘の天狗角
力取山山頂。霧乏しい。小屋で、この山なら10,20,30年後の七夕に再度来ることを誓う。粟畑分岐に戻り、
尾根伝いに進むと反対側からの周回の人に会い山話。すぐに参加雨天のある(障子ヶ岳)山頂。霧で視界
なく残念。尾根のアップダウンを繰り返し、山が岩峰であることを再確認。ピークの(紫ナデ)より下り鞍部の
大クビトから登りあとは一気に下る。林道を経て戻ると雨が降り出し、ゆったり館で体を温め、帰福。

梅雨前線に翻弄され3日間山歩き。7/13(土)群馬西2山「角落山」山頂11:00「鼻曲山」同13:50 8:55
～15:40(6:45)霧積温泉口より周回。曇りでいつ雨が降ってきてもおかしくない中、出発。林道歩き、橋・温
泉への林道を横切り山入り。カラ松林等を進み尾根に出て、東へ向かう。少し行くと(剣の峰:三角点・眺望
良い)。さらに急な道を慎重に一気に下り、上り返すと角落山山頂。祠のある、眺めの良い山頂。尾根を戻
り返して西へ。平らでなだらかな尾根筋を進み、小・中の笹のゲート、急坂を登ると鼻曲山頂。展望良い、
小天狗より浅間山の眺め良い。天候曇りで淡々と戻る。山容の面白い2山。R18の軽井沢が渋滞し温泉入
浴まで。7/14(日)晴れ長野東「湯ノ丸山」山頂6:35「烏帽子岳」同8:00 5:45～9:20(3:35)地蔵峠より周
回。キャンプ場より急斜面を進むとすぐ湯ノ丸山頂。朝日・山々の眺めよい。北峰の岩場まで行き眺めを楽
しみ、戻って急坂を下り登り返して尾根を進むと烏帽子山頂。展望良い。鞍部へ下り、平坦な道を峠へ戻る。
「籠の塔山」9:35～13:55(4:20)池の平の有料駐車場より周回。籠の塔は急坂登るとすぐ山頂。1等三角点、
展望楽しむ。尾根伝いに西へ東へ(西籠の塔山、水の塔山)往復ピストンして池の平へ下る。。さらに向か
いのあやめ、苧環、しゃくなげの花を尾根伝いに楽しみ(見晴岳)。さらにコマクサを楽しみ(三方ヶ峰)。下
って湿原の散策し戻る。「根子岳」15:10～17:45(2:35)菅平牧場口より往復。ダケカンバ・笹の整備された
登山道を一気に根子岳山頂。祠あり、四阿山の眺め良い。(小根子岳)でも展望を楽しみ、菅平の眺め等を
堪能して駆け足で下山。7/15(月)晴れ長野東「小檀嶺岳」6:00～7:55(1:55)村松西洞コースを往復。林
道・植林の道を進み、急坂・仏岩を経て子檀嶺岳山頂。三角点。朝日で村一面が緑に輝き「おとぎの国」を
見ているよう。村の行事の一行に山頂近くで会う。下りは慎重に戻る。「独鈷山」8:55～11:15(2:20)西前山
口より往復。林道、整備された急坂を登り、尾根に出て進むと山頂。先行含め3パーティー。頂上は三角点
あり、360度のパノラマで、陽光等楽しむ。木陰多く、夏には助かる山歩きで、来たルートを淡々と戻る。天
候には左右されたが、山、花、景色、温泉を堪能した3日間。

7/20(土)晴れ山形中央・宮城県境・鳴子「河島山」8:40～9:50(1:10)西溜池口より散策路を辿り尾根に出て
山頂探し。チャシ跡一の丸あたりが山頂。散策して戻る。「翁山」12:20～15:35(3:15)鉄塔用林道終点の吹
越峠より往復。草が伸びる登山道を尾根に出て(吹越山、黒倉山)を経てやっと翁山の山容が見え、草藪を

過ぎ淡々と灌木・笹のを縫う道を進むと翁山山頂。三角点あり、街、山々の眺めよく、心地よい日差し。来たルートを通り淡々と戻る。「胡桃ヶ岳」17:35～18:15(0:40)鳴子駅より車道進むも通行止めで道探し。通行止めを進み、T字路の右側の登山口よりあつという間に胡桃ヶ岳山頂。三角点あり、一部しか視界なし。すぐ下山し神秘的な瀉沼を散策し戻る。7/21(日)曇り宮城鬼首2山「禿岳」6:00～8:25(2:25)花立峠より往復。ブナ・灌木の尾根を進み、合目表示と刈り払いされた登山道を軽快に進む。急坂を経て9合目、すぐ禿岳山頂。三角点あり、鳥海・月山等山々の展望抜群。小鳥・薄日・空気がさわやか。ルンルン気分下山。途中雲が湧き出し霧の中戻る。「大柴山」9:00～13:20(4:20)オニコウベスキー場のゴンドラを利用。ゴンドラ山頂が(鍋倉山)山頂。観察カブトムシ小屋を見学後、尾根筋を刈り払いのない登山道を進む。壊れかけた展望台より刈り払いされ快適な尾根歩き。すぐ大柴山山頂。三角点あるのみで視界もない。いくつものアップダウンを経て進み、つつじの灌木の群落を過ぎさらに進むとブナ林のよい散策路。すぐ(花淵山)山頂。スキー場跡が寂しい。昼食後ブナ林を楽しみながら戻る。ゴンドラは夏休みの家族連れで大賑わい。駐車場に戻ると車内が蟻だらけ。いつの間にか甘いもの等で蟻が増殖した様子。目指す山の空が黒雲に覆われており、今回はここまで。

夏休み2日7/25～7/28不安定な天候のため、行ける所を一部縦走。25(木)新潟東2山曇り一時雨「宝珠山」山頂10:45「菱ヶ岳」同12:559:20～15:55(6:35)赤松キャンプ場より往復。整備された登山道を進み、鉄塔の尾根に出て尾根伝いに歩く。(赤松城山、赤松山、虚空蔵山(三角点)ヤタ柄山)を経て宝珠山山頂。山々の眺めよいが小雨。さらに尾根伝いに阿部の廊下・阿賀野川の眺めを楽しみつつ(大蛇山、野須張山)を越えて菱ヶ岳山頂。三角点のある広場で、そよ風・越後平野等の眺めを楽しみ戻る。26(金)立山2山曇り「鳶山」山頂12:30「越中沢山」同13:407:00～15:30(8:30)室堂より薬師への縦走路。(室堂山、浄土山、竜王岳)を経て尾根を進む。花が見頃(イチゲ、フウロ等)で(獅子岳)を経て、ザラ峠より登り返し五色ヶ原荘。少し進むと鳶山山頂。学生が大勢休憩中。眺めよい。さらに尾根を下り、ゆっくり登り返すと越中沢山山頂。スウェーデンから来た若い女性に会う。二等三角点、薬師等眺めよい。五色ヶ原荘まで小雨に降られながら戻り、6畳に1人で宿泊(宿泊者約30名)。風呂あり助かる。27(土)立山1山「富士ノ折立」4:00～12:30(8:30)明るくなりかけに出発。立山方面へ戻る。途中あられに降られ雨具着けたので、鬼岳東面より岩峰で急斜面の(鬼岳)に慎重に登り、下りも一層慎重に下り縦走路に戻る。浄土山、一ノ越を経て立山詣でへ。雄山でお祓い・お神酒を戴き、尾根を進み大汝山を経て少し進むと富士ノ折立の岩峰。慎重に登り山頂。晴れて日差し、眺めが心地よい。先へは進まず戻る。立山参拝の学生・団体・ファミリーの登り行列に下山に苦勞。室堂より立山駅へ戻る。昼を食べていると豪雨。お風呂で汗を流しても雨が止まず、大雨洪水警報が出たため、立山エリアより退避。28(日)梅海新道4山4:55～17:55(13:00)坂田峠より中俣新道分岐まで往復。「白鳥山」山頂6:40「菊石山」同8:15「犬ヶ岳」同9:35「黒岩山」同11:50整備された駐車場から尾根伝いに急坂・階段・平坦路を進む。(金時坂の頭)を経て白鳥小屋のある白鳥山頂。整備された小屋で眺めよい。絶壁のある(下駒ヶ岳)を経て菊石山山頂。若い女性の一人歩きに会う。唐松から入り6日目とのこと。(黄蓮山)を経て急坂上ると梅海山荘。さらに行くくと犬ヶ岳山頂。晴れて眺め、そよ風心地よい。宮崎から来たトレイルラン格好の人と情報交換。幾つもの山を越え(さわがに山)を経て朝日からの下山者に会う頻度高くなる。少し進むと目指す黒岩山山頂。中俣新道の分岐を確認し戻る。下りは雨がパラついたがすぐ上がり、好天。水の用意足りず苦戦。黄蓮の水場で一気に1?飲み干し、補給し生き返る。急坂の登り下りに苦勞しながらもブナ林を楽しみ無事戻る。月間山歩き52山と自己記録を更新。7月はよく歩きました。8月は山休み?

8/3,4 秋田・岩手県境秘境の和賀山塊3山、縦走が困難なための下見。8/3(土)曇り「白岩岳」9:45～12:

20(2:35)二股登山口より往復。林道終点登山口より植林地を経て山腹を進み尾根に出ると展望所を経て白岩岳山頂。標識あり。霧の中で視界なく、白岩薬師へも道あるが笹に覆われ断念しブナ林を楽しみながら戻る。「中ノ沢岳」13:40~18:00(4:20)真木渓谷甘露水口より往復。甘露水で薬師・和賀ルートと別れ、豪雨等で荒れた林道を進み、沢を2度渡渉し、林道を進み、細くなった登山道を覆う雑草等を除けながら歩く。すずみ長根口で山工程を確認し、ブナ林の坂を急ぎ足で進み、中ノ沢分岐より横移動し尾根に出る。平地は道を確認できたが、山頂への登りは、笹藪に道が覆われ、ルートを確認しながら笹等の藪をかき分け縦走ルートを進む。平坦地となり何とか中ノ沢岳山頂到着。沢内方面は視界あるが秋田側は雲の中。ルートの先の風鞍は見えるが同様藪続きの様子。来たルートを確認しつつ戻り、分岐より甲分岐まで出て整備されたルートを確認。霧・風もあり、時間も遅くここで打ち切り、ブナ林を楽しみつつ下山。8/4(日)晴れ5:20~10:15(4:55)真木分岐より七瀬沢林道進み、峠の黒森口より往復。登山口表示なく、ネットにて確認した峠登山口より山入り。ブナ林を上ると平坦な(黒森)昨日の雨等の露に濡れながら、尾根伝いに進み、急坂を登り、藪気味の道を進むと標識のある風鞍山頂。晴れで朝日、展望良い。縦走ルートを確認し、ルートの南風鞍へ向かう。道はあるが、笹が深いため、書き分けつつ進む。平坦な尾根では笹は伸び放題。刈り払いしないと本当の藪になる手前の状態のところを進む。表示の1km進むのに道探し、藪払いに苦勞の連続。一度手前のピークで心が折れかかったが、天候良く、周りより少し低い道らしきところをヤブ漕ぎして進み、南風鞍山頂。真昼・女神等の眺めよく、街並みも見え満足。戻りは、蛇に追い立てられて進み、来たルートを確認しつつ、足早に風鞍に戻り、尾根沿いのブナ林に見とれながら一気に下山

外さん天気男で羨ましいです。花のいい時期の焼石~夏油の縦走は特筆ものですね。

8/10,11 暑さと天候を気にしての山歩き。8/10(土)福島・新潟県境2山曇り「六十里越」峠 9:45「鬼が面山」山頂 11:30 9:25~13:00(2:35)六十里登山口より尾根を進み平坦に道を進むと六十里越の峠。さらに直進していくが、ガレて進めず峠の戻り尾根を登り、反射板。平坦な広い道を経て尾根に入り進むと(南岳)。曇りで視界なし。尾根伝いに会津側の絶壁に注意しながら上り下りして鬼が面山山頂。三角点あるも視界なく残念。この時期曇りで暑さもなく快適な山歩き。下りは一気に下山。その後会津側より八十里越に挑んだが、入り口の標石が工事で倒され、探すのに時間を要し遅い出発のため、下見と割り切り、松ヶ崎の大きな沢でタイムアップ。急ぎ足で戻るも日暮れは早い。入り口より開通困難なR289の砂利道・舗道歩き。夜7時を過ぎたが、ライトなく広いみちを螢の明かりと稲妻の明かりのシンフォニーを楽しみながら最後雨に降られ戻る。駐車場付近で大きなライトを山に当ててる2組あり。何を観察しているか不思議?。8/11(日)新潟五頭連峰1山「松平山」曇り4:30~8:15(3:45)魚止めの滝駐車場より往復。滝を見ながら橋を渡り、対岸より沢沿いに進む。この時期人が入らないせいか一部草藪を掻き分けながら進み尾根に取り付く。急坂を進み、雨梅雨に濡れた草が覆い雨具をつけ掻き分けながら淡々と進む。雲で視界ないが道はしっかりしており安心して進み、(山葵山)を経て水場入り口を過ぎるとまもなく松平山山頂。一等三角点。雲で前々回見えた新潟平野見えず残念。雨等で虫覆いため、すぐ来た道を急ぎ戻る。溪流沿いで沢歩きの2人に会う。この草藪の時期に会うのは珍しく向こうもびっくりで挨拶のみ。墓参りのため今回はここまで。

8月末今夏もまた日高山脈を訪れてきます。天候はわかりませんが、土産話をお楽しみに。(8/29~9/2)今年のバーベキューは・・・

・8/17(土)西山形・新潟県境3山晴れ「藤倉山」獅子畑登山口より往復。林道登山口は蛇等が寄り付きすぐ出発。植林地から急坂をのぼり見晴台で一休み。尾根伝いに進み展望地を経て藤倉山山頂。祠あり、さらに奥に進むと三角点あり、樹林の中で展望今一つ。下りはブナを楽しみつつ戻る。「温海岳」13:05~13:20(0:15)林道を車で山頂まで行き散策。三角点あり、山々の展望良い。「日本国」13:55~16:30(2:35)小

俣口より蔵王堂口へ周回。整備された登山道を進みすぐ山頂。展望台・休憩所・三角点あり。日本国征服証明発行で物議を醸した山。急坂を下り蔵王堂を経て旧宿場街を通り戻る。8/18(日)晴れ新潟北2山「石黒山」5:30~9:20(3:50)朝日スーパー林道登山口より往復。人がなく静かな山。沢伝いに一部崩れた道を慎重にトラバースして沢の渡渉等を経て、急坂で道も危ういところを進み、踊り場で一休み。さらになだらかな道を歩き避難小屋後を経てなだらかな尾根の石黒山山頂。さらに進み展望あるところで一休み。山々の眺め楽しむ。下りはブナ林を満喫しながら、急坂の足場の危ういところは慎重に歩いて戻る。沢・ブナが楽しめるワイルドでタフな山。「鷲ヶ巣山」10:15~16:40(6:25)縄文の里朝日に駐車し林道ゲートより林道を歩き登山口。暑さとタフな石黒山の後でよれよれの状態で二本杖で出発。植林地を経て沢を過ぎ急坂をゆっくり進み測候所で一休み。さらに急坂進み三角点のある(前ノ岳)山頂で一休み。これから先の山々が見えるが遠い。一旦下り、ブナ林を上り返すが暑さからか、玉のような汗で漆の木を避ける意識も薄れひたすら登り続け何とか(中ノ岳)山頂。なだらかな山。先に進むと下りつつトラバース気味に進み、上り返す。視界少ない雑木の中を進み灌木を進むと諦めかけた鷲ヶ巣山山頂。岩・祠・二等三角点・360度のパノラマを満喫。下りも登り返しが長く感じるほど。ただ、下りのブナ林は見惚れる程美しい。前ノ岳の登りは、省エネステップで苦も無く山頂に到達。後は下りのみで、やや元気回復。測候所付近にサルの子あり、そこからは2本杖使い中程まで駆け下る。沢で水を飲むが蛇と蜂に追い立てられながら駐車場まで。脇腹を蜂に刺されたみたい。触ると痛い。昨日の藤倉のヒル刺され(一匹)とさらに漆等草かぶれのかゆみ。夏は無理しない方が・・・

山形神室山系4山 8/24(土)晴れ「亀割山」10:05~12:50(2:45)瀬見温泉駅よりR47の亀割観音堂より入山。草藪・沢を幾つか過ぎて奥ノ院。義経伝説の地。さらに斜めに坂を進み尾根・電波所を経て亀割山山頂。そよ風の心地よい広場で、山々眺め良い。来た道に戻り、瀬見温泉街で足湯につかり戻る。「杳蔵山」13:30~17:15(3:45)山屋キャンプ場上の駐車場より林道を歩き、登山口。植林地、一、三の滝を溪流沿いに秋風を楽しみながら進み、沢を渡り避難小屋への急坂登る。尾根分岐に出て避難小屋を見学し、金盃水で一息つき、急坂登り、尾根に出て東側の崖を注意しながら進み、杳蔵山山頂。二等三角点、山々の眺めよく、風あり。下りは小屋を経て電波塔のある(三角山)を経て分岐に戻り、ブナ林、溪流、秋のそよ風に癒されながら戻る。8/25(日)曇り雨のち晴れ昨夜より雨続き。「火打岳(怪峰)」山頂 8:10「小又山(主峰)」同 10:20 5:55~14:20(8:25)土内口(火打新道)より吊り橋渡り、ブナ林の急坂の一、三の坂を進む。突然轟音と共に大雨。雨具着け、進むがいつ引き返すか考える。幸い直に雨が止み、(西火打岳)・湿地・溝地を経て急坂進むと火打岳山頂。一等三角点、風強く、雲の中で視界なし。時間に余裕あり、ダメなら引き返すことで時間を決め、尾根伝いに先に進む。一気に200Mを下り、砂利口分岐。さらに進むと雨が降り始め、引き返しも考えるが、直に雨も止み、先の見えない尾根を南側の急な崖に注意しながら淡々と徐々に高度を上げ、急坂を登り切ると小又山山頂。三等三角点、曇りで視界なし。他のルートを確認し下山。崖側を注意し雨にも降られず、陽射しが出てきた中、砂利口分岐まで一気に下り、昼食。200Mの登り返しを諦め、砂利押沢へ急坂をゆっくり慎重に下り、沢に出て、沢歩き。ピンクのテープ目安に慎重に進む。沢を離れたところから急な崖のトラバース道に緊張しながら、トラロープを手助けに進む。幾つかの沢を越え、杉植林地に出て落ち着くが、次に大きな川に出て、ピンクテープは対岸に。靴を脱いで渡り、上り返すと神室への登山道と合流。登山道、林道を経て駐車場へ戻る。距離17.5K、ハードだが、楽しめる山。縦走ルート道が刈り払いされ、しっかりした道でブナ林も良く、今回は天候に恵まれなかったがいろいろ楽しめる山系。

夏休み NO1:北海道日高山脈、天候不順:大雨洪水注意報等でヒョウタン滝で道路通行止め、沢歩き不可のため予定した山塊は昨年に続き延期、来年以降。日高山系 8/29(木)曇り「ペケレベツ岳」9:20~12:10

(2:50) 国道脇の登山口より往復。なだらかな坂、笹をはらいつつ進み、リスに会う。急坂上るとペケレベツ岳山頂。二等三角点、帯広平野・山々の眺め良い。往復で2人に会う。「芽室岳」13:05~18:05(5:00)小屋のある登山口より5.7キロを往復。行きに夫婦に会い山情報をもらう。笹を掻き分け声を出しながら進み急坂上ると西峰分岐。一休みし尾根をトラバースしハイマツ帯を経て芽室岳山頂。一等三角点、岩々の山で平野・山々の展望良い。下りは西峰分岐よりハイマツ帯・トラバース・花畑、灌木の急坂を登り山容の美しい(パンケヌーシ岳)へ寄り、長い笹原道に戻る。8/30(金)小雨「佐幌岳」11:20~13:30(2:10)スキー場を上り、途中笹に濡れながら急斜面を登り、リフト終点の奥の立派な登山道より佐幌岳山頂。一等三角点だが、雲で視界なし。峠からの登山道はしっかりしている様子。下りは登山道を降り、キタキツネに会う。「オダッシュ山」曇り15:05~17:45(2:40)高速道路近くの登山口より往復(朝雨のため4H待機した山)。バイクの登山者に合う。白樺平、前峰を経てオダッシュ山頂。三角点ある広場。視界なく、雨を含み滑る登山道をゆっくり戻り、鹿の足跡あり、高速道脇で蝦夷鹿に会う。8/31(土)「チロロ岳」今回のメイン7:45~14:50(7:05)林道の曲り沢口より往復。ゲートより林道進み、北電の水力発電施設を過ぎ沢筋歩き。テープ目安に日高らしい沢の急坂を淡々と進む。2箇所大きく崩れているところは慎重に歩く。沢を詰め水のない道を進み尾根かと思いきやまた下り沢へ。再び沢筋歩き。水がなくなったところでお花畑。右側に山が見え、テープもあり、そちらの岩岩歩きを楽しみ。なだらかなピーク(チロロ西峰(西岳))。北側に高く山が見え、分岐に戻り、ナナカマドの赤い実の鮮やかさに見とれ、ハイマツ帯・コケモモ等を楽しみつつチロロ岳山頂。二等三角点、山々の眺めよく、昼食後ゆっくり下山。途中で雨が降り出し本降りとなり、沢筋歩を楽しみつつも慎重に下る。砂利道の林道が長く深い山。

夏休みNO2 9/1(日)日高「ピセナイ山」8:10~12:10(4:00)サラブレッド銀座で馬を楽しみ、静内ダムより悪路の林道を進み、ピセナイ林道口に駐車し林道歩き1H。林道は後から2組が車で入り、整備された林道だが途中落石が幾つかあり。沢を楽しみながら歩き、林道終点より山入り。合目表示あり、尾根に出ると笹原の尾根。少し進むとピセナイ山頂。二等三角点。山頂は海岸線・山々の眺めよい広場。下りは、松林・沢を楽しみつつ下山。9/2(月)雨 道央「徳舜瞥山」10:20~13:40(3:20)雨のため、4H待機。雨やまず已む無く、長靴・雨具付け往復。登山道は途中、小川に変身。合目表示に助けられ、ひたすら進む。灌木帯を経て南側崖の徳舜瞥山山頂。風強く、すぐ次へ。一旦下り、強風雨の中進み、急坂上ると(ホロホロ山)山頂。一等三角点、道自然百選。休む間もなく一気に下山。最終日も雨。この時期は、気温も低く、ダニ対策は良いが、気温も低く、天候も不安定で目指す日高中央部は厚い雲の中で洪水注意報頻発。沢歩きには不向きな時期か。来年はお盆過ぎか。

9/7(土)新潟北1山曇りのち雨「朴坂山」11:55~14:40(2:45)朴坂集落登山口より周回。登山口神社を経てなだらかな道を進み、林道分岐より尾根の急坂進み、なだらかな尾根を経て朴坂山山頂。一等三角点、田園地帯、山々の眺めよい。尾根伝いに川原登山口へ笹をかきわけ進み、(サンバクラ山)まで行き戻る。途中尾根分岐より林道に出る。小雨だが草が濡れ足元はぐっしょり。天気予報とおりに崩れて、9/8は久しぶりの雨休み。

9/14,15 新潟北5山 9/16 台風休み 9/14(土)晴れ「光兎山」8:45~13:10(4:25)千刈登山口より往復。なだらかな植林地を進み、中東ルートと合流。尾根伝いに進み(虚空蔵峰:三等三角点:神燈等あり)。下り上り返すと(観音峰:標示・祠)、さらに尾根を進むが、ブナの樹林地帯をはずれ非常に蒸し暑く、ペースが鈍る。雷峰(何もなし)・姥石等アップダウン繰り返し、最後の急坂を暑さにバテ、玉のような汗をかきながら光兎山山頂。二等三角点、山々・田園等の眺め良く、トンボの群れに秋を感じる。ここでも玉のような汗。下

りは、一気に歩き、観音峰手前のブナ林のおいしい湧水で一息つき、ブナの森を楽しみながら戻る。登山者多いが途中引き返しが大半の暑さ。後でヒル刺されに気づく。「新保岳」14:40～16:10(1:30)登山口まで舗装の林道。急坂を進み、展望地より、立派なブナの森・地元の小学校の植樹の森を楽しみ進むと新保岳山頂。山々の眺めよく、穏やかな天気。ブナ林を堪能しつつ下山。9/15(日)天候悪化前に急ぎ歩き。「高坪山」5:00～7:25(2:25)駐車場より舗道歩き、分岐から蔵王コースより周回。沢水でのどを潤し、急坂のブナ林進み、ヤマボウシの実を楽しむ。なだらかな尾根を経て高坪山山頂。二等三角点、田園、海岸線の眺め良い。尾根伝いにブナ林を進み、奥の院に寄り、(虚空蔵峰)を経て一気に下り分岐に戻る。砂利の林道ですぐ近くに灰色のカモシカに会う。一瞬飛び退いたが、あとはにらめっこ。「鳥坂山」7:55～10:35(2:40)日本一小さい楕円山脈の一角、追分コースを往復。急坂進み、尾根分岐に出て、城跡の(白鳥山)を経て電波塔。さらに急坂進み鳥坂山山頂。三等三角点、街並みの眺めよい。クヌギのそばで一休みし昨日に続き昆虫のクワガタに会う。滑りに気をつけ白鳥公園を経て戻る。「風倉山」10:45～14:20(3:35)胎内ダム登山口より往復。小雨ながら決行。ダムを渡り、展望台まで進むが草薺化しつつある。電力会社の階段を上り、塔屋からは尾根歩き。松・ブナ尾根で初めは雨も凌げたが、途中より本降り。灌木になり雨具をつけるが、帽子をかぶらず、視界狭い。細尾根急坂を草等に掴まりつつ登るが、エネルギー切れでバテバテ。短時間でも腰を下ろし食事(幸い小降り)後復活。坂を進み、二山目が「風倉山」山頂。二等三角点。山々の眺めよい。2山先の北の峰を往復。急峻なやせ尾根を実感しつつ慎重に歩く。雨が本降りとなり、痩せ尾根を滑落しないようにゆっくり慎重に戻る。降りてきたら、雨が止む。標高 1000m いかないが、深い急峻な山。

再び「伝説のハイカー」伝。9/21(土)快晴 上高地「明神岳」6:35～16:05(9:30)新設された沢渡バスターミナルよりバスで上高地往復。好天を意識しスタートは競うように岳沢口より山入り。淡々と岳沢小屋まで休まず登る。小屋で一息入れヘルメットを装着しまた競うように少し重い荷物(ビバーク想定 of 寝袋等)を気にしながら、急坂の梯子・岩々等に、渋滞で休憩しながら一気に紀見子平(おにぎり休憩)。ここでは大半の人がリュックを置き空身で前穂高を往復。晴天で風もなく最高の日和。荷物を気にしながら急な岩場を休まず淡々と登り、前穂山頂。人が大勢で圧倒される。眺め最高、狙う明神岳も全部見える。すぐ次の本命への道探し。少し下り、踏み跡より尾根伝いに明神へ。ガレバ多く、すぐ余分な荷物はデポしロープを肩掛し空に近いリュックに軍手をしていざ出発。最鞍部に行くまでもガレに気をつけ、ルートを確認しながら進む。向こうから空身の若者が登ってくる。挨拶したが、ルートを探っている様子。空身で行けたのか不明。荷物軽くなり動き良い。大きな岩塊を前にルートを探す。両側は切れ落ち無理。一度右から攻めたが進めず戻り、正面突破へ。3点確保でもギリギリ足場、ホールドを確認しつつ慎重に上へ。難所を過ぎると岩とガレバ歩き。滑落に注意しつつ何とか念願の明神岳山頂。ヤッターと声を上げかけ、前方の急峰2峰を目指す2人連れ見かけ中止。II峰は私のような素人では無理なところ。山頂から穂高連峰、槍、御岳、南アルプス、富士山など 360 度の大パノラマに大満足。ゆっくりもできずすぐ戻る。急岩峰は、手と足場を確保しつつ、使い慣れないロープは使わず何とか最鞍部。一度ルートを間違えたが、来たルートを辿り、デポ荷物を加えやや重い荷物ながらゆっくりと前穂分岐まで。休まず紀見子平へ追い抜きながら一気に下る。そこでも休まず、さらに岳沢小屋まで下り、2つ目のおにぎり休憩。メットを外し、後はゆっくりながらも軽快に休まず下り、上高地バスターミナル着。好天、視界良好で暑くもなく水もさほど入らず、恵まれ過ぎたが遂に1つの難関を越えた。紅葉はダケカンバが色付き始め。やまゆき会の皆様よりお先に行けました。標高 2300m超えると別世界。朝は上高地でもヤッケがいる寒さ。まして高地では。天候次第での各自の体力判断に気をつけ、リュック、手袋、ヘルメット(登りに落石に会い、加速度で進む岩に驚き、腕で顔をカバーしようとしたが幸いそれで助かる)は命と考えて行って来てください。

連休続き 9/22(日)晴れ長野中部3山「戸谷峰」6:15~9:25(3:10)野間沢橋口より往復。中電の送電鉄塔保守道を辿り尾根へ。台風で荒れた尾根を進むと戸谷峰山頂。二等三角点、朝日、北ア等眺め良い。山葡萄を取り下山。「三峰山」12:00~12:40(0:40)広い駐車場よりなだらかな笹等の草原の中の道を辿り、三峰山山頂。三角点あり、山々の眺め良い。中央分水嶺トレイル 38kの標識あり。軽快に戻る。その後ビーナスライン沿いの(物見石山:赤とんぼ多し、牛伏山:王塔ノ頭の眺め良い)を散策。「夫神山」17:00~18:00(1:00)別所温泉公園から荒れた林道を進み、岳の幡登山道に会い、茸山入山禁止を気にしつつ、急坂を何度か林道に出会いながら進み、林道奥の登山道と合流し急坂上ると夫神山山頂。二等三角点、稲穂田、山々の眺め良い。一気に下って薄暮に戻る。近くに女神山あり。9/23(月)曇りのち晴れ長野中部3山「冠着山」5:40~6:25(0:45)登山口より、林道歩き、終点より尾根を進むとすぐ冠着山山頂。三角点、神社あり、街並み眺め良い。別名姥捨山。「聖山」車で山頂まで時刻7:20。一等三角点。雲で視界なく残念。近くの聖湖を眺められる(三峯山:三角点あり、街と聖湖の眺め良い)を登る。「四阿屋山」9:35~11:15(1:40)坂井ルート。急坂を車で登り登山口より荒れた急坂を辿り、麻紡ルートと合流。尾根伝いに進むと神社。その上が四阿屋山山頂。三角点あり、樹林の中で視界今一つだが、ブナ林良い。来たルートを急ぎで戻る。墓参と渋滞回避のため、今回はここまで。天候に恵まれ、大満足の3連山行。

9/30 休みで3連休。宮城・秋田県境 9/28(土)晴れ「荒雄岳」9:35~11:30(1:55)八ツ森コース、八ツ森を経て、ブナ林を楽しみながら荒雄岳山頂。二等三角点、日差し、そよ風心地よく、軽快に下山。「虎毛山」12:35~17:25(4:50)旧赤倉橋より下り林道を進むと登山口。さらに清流沿いの林道歩きが続き、橋のかかった渡渉点より山入り。林道整備の人々の下山に合う。日帰りにあきれた様子。黙々と急坂を一気に登り、高松分岐で一息。トラバースし灌木の中の坂を登ると避難小屋の先に虎毛山山頂。二等三角点、平らな紅葉始まりの山頂。湿原の木道、泥炭道を進み、終点で一休みし食事。陽光柔らかく、草原は黄金色で天国にいるよう。新しそうな小屋を見学、若者2人泊。軽快に下り日没前に余裕で戻る。片道7kの長躯で少し疲れた。9/29(日)晴れ「東鳥海山」6:20~8:30(2:10)林道より草露に濡れながら丈の長い草を気にしつつつづら折れの道を進む。途中トレランの元気な人とすれ違う。ほかは誰とも会わず静かな山。旧神社を2つ経て尾根から林道に出て終点が東鳥海山頂。二等三角点、街並みの眺めよい。少し山葡萄を摘み、淡々と下山。「雄長子内岳」神社脇から栗を拾いつつ、林道を経て山道。途中道を見失い、急坂を直登し登山道の尾根に出会い、急坂を上ると平坦となり、間もなく雄長子内岳山頂、神社、四等三角点、日差し強く、山々、街並み、田園の眺め良し。正規ルートで下山。「水晶森」11:50~17:05(5:15)大平林道から繫ノ又沢より入山。沢沿いにテープを目安に進む。草丈高く、人があまりは入らないコース。沢では目印わかりにくいので下山を心配して後ろを振り返る。尾根に取り付き急坂を上る。下の道はあるが、草木が被さり、払いのけながら、やせ尾根は注意して進む。尾根手前で道不明となり小藪漕ぎし何とか尾根の登山道に合流。出たところに目印つける。林道分岐の表示には鞍部とあったが、不明。途中見かけた反射板の案内とおり尾根を水晶の方向へ進むと反射板あり、さらに坂を進むとピークで標識のない水晶森山頂。縦走路より支線が突き出した山。神室の山々等の眺めよい。日差し強く、縦走路に戻り、下って鞍部の表示探し。山形側の水晶森登山道は整備されている。さらに尾根を進む、水晶のはず向かいの(黒森山:二等三角点、神室山系の北詰め)まで行き尾根を引き返す。時刻は16時。日没を恐れ、来た藪を経て草木の邪魔する登山道を一気に下る。やせ尾根、急坂は慎重に、あっと言う間に沢出合い。苦勞すると思われた沢下りはすんなり進む、藪入りより小1時間で無事戻り安堵。9/30(月)「高松岳」山頂 9:00「山伏岳」同 10:15 6:25~13:10(6:45)泥湯温泉登山口より、トラバース気味に進み、新湯。ブナ林等の山腹を横切り、小安岳分岐。すぐ(小安岳:朝日、鳥海等眺め良し)なだらかな丘を越え、谷風が強い中、小屋を経て、灌木の道を経て高松岳山頂。風強く、向

かいの虎毛、鳥海、栗駒等山々の眺めよい。小屋に戻り食事。下って登り返すと山伏岳山頂。二等三角点、鳥海、別ルートの岩々のジャン、屏風の眺め等良い。下りは緩やかで、ブナ林の心地よい林道をルンルン気分で川原毛口へ下山。ここで終了のはずが、すぐそばの川原毛地獄巡りで下り続け、大湯滝まで。温泉滝と知り、脱衣所で脱いで水着の家族の下の川原で汗を流し、滝に打たれて大満足。川原毛地獄を登り返し、舗道を峠まで上り、後は下りで泥湯に戻る。天候に恵まれ、少し無理した3日間で初秋を満喫。

10/4~6 は例会で上高地涸沢の紅葉と前穂から奥穂縦走と奥穂のサポート。紅葉の涸沢を歩くことができ、主催者等皆様に大感謝。10/12~14 岩手中部 10/12(土)雨 JAC 例会中止?遅刻のため山行実施。「焼山」8:35~12:35(4:00)後生掛温泉より往復。曇りの中なだらかな樹林帯を進み、途中より雨降り。(梅森)で雨風共ひどくなったが淡々と進み、崩壊寸前で使用中止の小屋を経て池・火山湖を経てざら場の強風をしのぎ、なだらかな尾根を進むと焼山山頂。二等三角点、笹原の中、曇りでお日様が時折顔を出す。下りは鬼ヶ城へより下山。足湯で少し温まる。後は移動長い明日以降の下見。10/13(日)晴れ「貝吹岳」外さん、Tさんに案内してもらい国見峠口より往復。8:55~12:00(3:05)ゲートより舗道を歩き峠・ヒヤ湯より林道歩き。鉄塔まで続き少しの山歩きで貝吹岳山頂。三等三角点、標識の付け替えのボランティアの方と情報交換。山々等眺め良い。史跡の云われをTさんに教えてもらい、外さんにも感謝。紅葉は始まりかけ。「毒ヶ森」13:40~15:50(2:10)南昌第一トンネル過ぎ白根沢橋脇の北の沢林道入り、ビバリと沢より早朝下見時山菜取りの人がルートありとのことでチャレンジ。沢を踏み跡を頼りに進み、途中より尾根に取り付き、跡は不明だが、小藪を上下を確認しながら進み、志波三山の縦走路NO37と38の間に出る。尾根伝いに進み(ノロキ山)を経て、2 差路を毒ヶ森への急坂を辿り程なく毒ヶ森山頂。なだらかな山で樹林の中ながら日差し心地よく樹幹より箱ヶ森等の眺め良い。三山・南昌はすでに登り、ピンポイントでの登山。来たルートを忠実に戻る。10/14(月)晴れ「七兵衛頭」7:00~9:25(2:25)初日下見で3度目のトライ。早坂峠より入り牧場の柵ゲート2つ目過ぎて牛と出会い進めず、駐車。牧場道を歩き最奥の牧場に入り、西端より笹等藪入り。1Pで森林局の標識と刈払い道に逢い後は軽快に尾根を進み、念願の七兵衛頭山頂。三等三角点、朝日、そよ風が気持ちよい。戻りは尾根刈り払いより牧場に戻り、「絵になる風景」を堪能して牧場道に戻る。「黒森山」12:50~14:00(1:10)石峠より林道を車で登山口探したが不明で、やむなく伐採道を利用し急坂を登り、終点より、笹等の小藪を登りなだらかな黒森山山頂。一等三角点、快晴で心地良い。樹林の中で視界今一つ。着実に来たルートに戻る。「折壁岳」14:50~16:40(1:50)親切な牧場巡視の人に牧場道奥まで車で案内してもらいし出発。地図と案内文の読み違えで道迷い。天候良く心配なく歩けるため、めげずに牧場端から尾根歩き。牛道(作業道)に助けられ軽快に進み 2P目の笹等の藪を進み山頂らしきところ。平らで山頂探しに手間取るが少し小高いところに折壁岳の標識と三角点を確認し安堵。樹林の中で視界今いち。来たルートを辿り夕日時に戻る。3日間、周りの人に助けられ満足の山行でき感謝。

宮城北 4 山ヤブ山と小雨 10/19(土)雲「須金岳」7:10~14:20(7:10)大森登山口より周回。植林地・ブナ林を経てなだらかな(水沢森)。尾根伝いに進み、山頂標識。さらに進み、風が強い中、登山道でのピークを過ぎ、9 合目の仮山頂標識。標識の云われは不明。そこから藪入りして本当の山頂目指す。ほとんど人の入らない本格藪。ヤブの薄い所を探しつつ、地形を確認しながらのヤブ漕ぎ。なんとか灌木の中の須金岳山頂到着。何も無いが、虎毛山等の眺めよい。風強し。藪下りは少し楽。しかしほんのわずかな距離で往復 1:50も要した。下りは、隣の片倉森の道探して藪をトラバースし林道に出て、林道終点まで行くが、登山口らしきはなく、戻る。「片倉森」15:10~19:35(4:25)下見時より登山口不明の藪山。已む無く、鉄塔道を鉄塔まで歩き、藪入り。取り合えず目前のピークを目指す。蔓と笹等の藪に急斜面加わり苦戦。何とか尾根に取り付き 1Pで一息。夕暮れ間近で山頂は、尾根伝い数山先。結論が定まらないまま、足は前へと進む。尾

根伝いに藪の薄いところ、獣道？等を進み、幾つかのピークを越えるうちに闇が迫る。片倉森山頂の確認に先まで進み確認。標識なし。下りは来たルート戻ると藪漕ぎに費やしたエネルギー切れでビバーク必至。小雨も時折かかる。已む無く、鞍部より来た側(西側)へ下る。途中平坦地で道迷うも、方向再確認し、鉄塔の明かりが見え、確信して沢を下る。来たルートよりなだらかで、救われ 1:00 で旧道に出て車まで戻る。精根尽きた 1 日。10/20(日)「大土ヶ森」6:50~8:25(1:35)時折の小雨。登山口より軽快に進み、急坂をロープに助けられながら登り、大土ヶ森山頂。二等三角点。山々の眺めよい。下りもロープに助けられ、沢歩きを楽しみながら、戻る。「秣岳」10:10~11:25(1:15)登山口より、天候が悪化する前に戻るため、駆け足に近いピッチで整備された道を進み、尾根より風強くなる。山容の立派な山でつづら折れの登り後、最後は直登でなだらかな秣岳山頂。三角点あり。下で見た山が、雲で視界なく残念。下りも特急でブナ林を楽しみ、下山。本降りに会わず助かる。

台風を避け藪山歩き 10/26(土)雨のち曇り宮城北1山「荒神山」13:00~17:25(4:25)

御所山荘に駐車し雨上がりを待ちかなり遅めのスタート。林道を歩き、船形山への荒神コースを辿る。堰堤を横切り、沢歩き。トラバース等ルートを確認しながら進み、尾根への坂を上ると台風の影響で霧と風が強くなる。荒神分岐より急坂、柔いトラバース道、大きな岩峰の急斜面を登ると岩の上。ここからは、道なく尾根伝いに薄藪を掻き分け、慎重に進む。何とか灌木と笹の荒神山頂につき三角点探すが見つからず。帰路の方向に迷い、木につけた布目印に出合い、来たルートを確認しつつ、藪を抜け、あとは一気に下り、紅葉しているブナ等を愛でる余裕なく薄暮の沢下りは急ぐが、慎重に。何とか明かりも点けずに無事山荘に戻る。10/27(日)岩手中部2山「大麻部山」8:30~13:20(4:50)馬越峠より牧場林道に入り途中駐車し林道歩き、林道分岐を左に進み、牧場を横切り端より藪入り。山が見えるので、笹・沢等を気にもせず、前へ前へ。少し後ろを振り返ったが、後で怖い目に。蜜な笹藪の薄いところを探し、熊のざわめきを気にしながら進むと、藪のない別天地。笹藪を避け、山頂近くまで行けて、最後の蜜藪を経て大麻部山山頂。二等三角点。晴れで風強いが心地よい気候。藪・樹林で視界今一つ。反対側に立派な登山道・テープあり、啞然とする。道は見つけられなかったが一般に近いルートある模様。帰りは、一度藪入り間違い、戻るが再度進むも、道はなんか違う。取りあえず下ったのが迷いの始まり。やけに藪が続きた道と明らかに違う。えいと進むが、方向が定まらない。深い笹藪を漕ぎ、木に登っては方向確認するが目安が不明。それでも、1pを目安に方向を確認し、深い藪漕ぎ、トラバースと動き回り、平坦な丘。ここも道迷いし辺りを探る。地図で再確認し方向定め下り進むが、何か違う。くたびれ来て少し降りて見覚えのある山がさらに先にあることを確認。一目散に進み、何とか林道に出て戻る。行き 1:20、帰り 3:20 が苦闘を物語る。「大黒森」14:50~16:40(1:50)へこたれずに2山目。山は見えるが、登山口を探すが見つからず、荒川牧場の道を車で行ける水場で駐車し、林道歩き、橋を経て登り、小高い奥の荒れた牧場を上り、笹の獣道を上へ進む。鹿の鳴き声が聞こえる。笹藪を掻き分け、カラ松林を登り続け平坦な大黒森山頂。二等三角点。樹林の中で視界なし。下りは、目印を回収しつつ下るが、最後は笹藪に迷い、藪漕ぎして牧場に出て無事戻る。藪は怖い、まだまだ沢山ある。無事歩けるか、今は何とも云えない。

3連休 JAC 岩手支部例会参加。11/2(土)晴れ「駒ヶ岳」9:30~14:20(4:50)例会で金ヶ崎登山口より往復。ブナの紅葉等眺めながら途中の不思議な四等三角点を確認して下賽の河原・上賽の河原を経て駒ヶ岳山頂。二等三角点、新しい社あり、焼石、五葉、早池峰、岩手等山々の眺めよく、快晴に心も浮き立つ。下りもブナ林を楽しみながら、久しぶりの例会参加で情報交換。来月も忘年例会 12/14.15 への参加を約す。11/3(日)夏油 3 山目「牛形山」5:55~10:50(4:55)晴れ一時曇り夏油温泉口より周回。林道を 2 度横切り、尾根伝いに進む。ブナ林を眺めながらトラバース気味に歩き、途中の岩岩等慎重に行き、分岐より急坂を

ロープを頼り登り、尾根を進むと牛形山山頂。二等三角点、朝日、風強い。山々の眺めもよい平坦な山頂。下りも急坂はロープを頼りに下り、分岐より縦走コースへ。草原・丘を経て地蔵のある(白っこ森)を経て一気に急坂を下り、緩やかな尾根を進む。雲が追いかけて来て天気を心配しながら急ぐ。(鷲ヶ森山)で一瞬の紅葉を楽しみ、一息入れ尾根を下る。鞍部が峠かと思いきや急坂を上り、なだらかに下ると待望の丸子峠。先の山へ進む元気が今一つで当初どおり下る。日差し、紅葉のブナ林を楽しみつつ道を確認しながら、車道を経て戻る。「八方山」12:20~15:45(3:25)花巻西、太田登山口より往復。空が今にも泣き出しそうな雲行き。案内表示無く、鉄塔保守道を進み、藪のため引返し、途中より林道へ出て上へ進む。林道は終点近くよりなだらかな道歩き。(長根崎山)を経て続くなだらかな道をブナ等の紅葉を楽しみながら進み、尻平川コースと合流し、急坂上ると展望と祠のある山頂。よく見ると奥に高所あり進むと二等三角点のある八方山山頂。ブナ林の中で展望今ひとつ。来たルートを淡々と戻る。11/4(月)雨・曇りのち晴れ遠野ヤブ山2つ。楽天の日本一に心も浮き立ちながら山歩き。「白見山」8:10~10:10(2:00)沢山の風車の発電施設を車から眺め、樺坂峠より牧場口に駐車し歩く。遠くより見えた2頭の鹿が入った牧場の端の笹より藪入り。少し下ると林道に出会い、進むと登山口表示あり、笹藪の中にきれいに刈り払いされた登山道がある。藪を覚悟したが、本当に助けられた。道に忘れられた鉋を片手に少し邪魔な竹を刈り払いながら背丈以上の笹藪を脇目に進む。急坂でも脇の笹は深くて密。道を維持してくれている方々に心より感謝。淡々と笹の中の道を進み、平坦な白見山山頂。一等三角点。刈り払いされた笹原の丘で視界は遠くのみ。下りも余分な笹を刈り、道作りの大変さを身にしみながら登山口・林道、笹藪を経て牧場に戻る。牧場から牧場の緑地・紅葉の白見山・雲の中の朝日・風力発電の風車群の360度の眺めは「絵になる風景」。「オーツ岳」晴れ 11:25~13:55(2:30)R360 立丸峠より尾根伝いに境界刈り払い、踏み跡、旧林道を頼りに笹の薄いところを探して進む。山頂直下は、道不明のため、旧林道よりトラバースで獣道?を尾根に出て、目印を確認し背丈以上の尾根藪を獣等の道らしきところと笹の薄いところを探し笹をかき分け進む。笹がやや薄くなったピークがオーツ岳山頂。二等三角点、標識あり。笹と木立の中だが、樹間より山々の眺め良い。下りは、旧林道からのピンクテープの在る方の道を探したが道は同じ藪のため、来た尾根の藪より慎重に道らしきところと目印を確認しつつ淡々と戻る。カラ松等の紅葉が良い。少し充実の連休。北上山地の笹藪山歩きは続く。

11/9,10 岩手北上山地 3山 11/9(土)「堺ノ神岳」12:35~14:00(1:25)林道の山と牧場分岐標示より往復。林道走り 20kでくたびれ。藪化しつつある林道を進み、笹が被さる道を掻き分けながら進み、赤い鳥居。刈り払いされた石段を登り進むと堺ノ神岳山頂。アポローチを悩んでいた山に晴天、岩手山、早池峰等 360度のパノラマあり感激。三角点あり、微風・陽光がなじむ。来たコースを淡々と戻る。アポローチに比べあつという間の山。ただ、ここから来た整備された林道を通らず、牧場ルートのショートカットがあだ。悪路で舗装道路の手前で前輪が悲鳴上げパンク。已む無く応急タイヤに替え、宮古まで出て交換。明日天候荒れるため、あと1山ナイトハイク。「卯子酉山」19:45~21:15(1:30)鶴鳥神社口より周回往復。半月の明るさに支えられ神社を経て急坂の参道を確認しながら進む。鳥居より少し下り奥社、その奥まで行くが、山頂らしきなし。鳥居に戻り、脇の小路を展望台まで進み、尾根伝いにシルエットで高く見えた方向に進むが、ピークらしきは不明。戻りかけに、途中から上りの道のあった卯子酉山山頂に無事辿り着く。一等三角点、月・街明かりを堪能し、展望台の表示板で山名は干支の方向を示していることに気づくいて、下山。山頂への上り口のピンクテープを下山時に確認。11/10(日)曇りのち雨、「原地山」6:25~8:10(1:45)鍋割峠過ぎた明神岳無線施設より歩く。山案内文どおり山を探し右往左往。三角点見つからず、戻りかけに文の中の牧場のゲート・有刺鉄線を確認。避雷針まで進み、向かいの山がピークと確認し牧場・有刺鉄線を過ぎ、尾根を進むと4等三角点の樹林の中の原地山山頂。天候が急変し猛烈な風に牛も避難。牧場を経て戻る。戻る途中より雨が本降り。今回はここまで。

11/16,17 岩手北上山地 4 山、両日共晴れ 11/16(土) 11:40~12:20(0:40)「毛無森」林道を岩泉 30 景の標示案内を 2 度見て登山口へ。NTT 無線塔より牧場作業道を往復。山頂は、平坦な広場、2 等三角点。樹林の中で視界今一つ。「メンズクメ山」12:55~15:00(2:05)メンズクメ林道舗装工事で通行止めのため、途中に駐車し、工事の林道を進み分岐より鬼の坂線の舗道を進み、峠より山入り。尾根伝いに林道跡、獣道等を辿り、頂上付近は笹藪を書き分け山頂。平坦な笹藪の山頂で樹林等で視界今一つ。来た道に戻るが、急ぐあまり意外と見落とし多く、迷いつつも無事峠に出て戻る。陽光が心地よい天候。「御大堂山」17:10~20:00(2:50)ふるさと林道米内川櫃取線の舗道で牧場まで行けたので、月夜の山行。月明かりで牧場の端を進み、道らしき所をドンドン進み、土塁に出てその上を登っていく。終点で背丈以上の笹藪。已む無く上へと脇目も振らず進み、広場に出て、三角点のある山頂に到着。一息入れ、楽勝と思いきやここからが落とし穴。来たルートと思ひ藪に突入するが、土塁まで行けず、山頂広場への往復は 5 回以上。途方にくれかけ、道らしきのある方角に行き、笹に惑わされないよう腰を低くして踏み跡らしきを辿ると無事土塁終点に戻り安堵。土塁をゆっくり戻るが、勘違いで後戻りしつつ、目印の掛け棒より道らしきを経て牧場に出て無事戻る。登りを急ぎ過ぎて周りを見なかったこと、方向を確認しなかったこと等が反省される。登り 0:40 下り 2:10。11/17(日)「片羽山」6:25~10:05(3:40)鳥居のある登山口より往復。合目標示を頼りに広い林道を進み、終点の 4 合目より、両脇の笹が多く、深くなる。好天で軽快に進み、朝日を浴びながら進み岩のある山頂。二等三角点。微風で、早池峰、五葉等 360 度のパノラマ。久しぶりに山頂でゆっくりする。下りは、団体等幾つかの登山者に挨拶し山話。途中山名もない三角点のピークを 1 つ確認して戻る。昨晚の寒さで体が今一つ。今回はここまで。

11/23.24 山梨東部 6 山晴れ 23(土)「三瀬ノ頭」10:35~11:55(1:20)柳沢峠より往復。ハイキングコースで、二等三角点の(柳沢ノ頭)を経て進むと三瀬ノ頭山頂。富士山、南アルプスの眺めよく、展望を楽しむ。「鶏冠山」11:55~15:25(3:30)同じ柳沢峠より往復。遊歩道から平坦な登山道を進み三角点とその奥にある(黒川山)で富士等の景観を楽しみ、さらに奥の神社への急な岩場を楽しむように登り、鶏冠山山頂。神社と絶壁の岩峰を楽しむ戻る。24(日)5:10~14:10(9:00)「小金沢山」山頂 6:55「牛奥の雁ヶ腹摺山」同 7:25「黒岳」同 8:20「大蔵高丸」同 9:25、上日川峠奥の小屋平より小金沢連峰を縦走往復。月明かりを頼りに坂を登り、石丸峠。尾根に上り(天狗棚山)を経て草原を下り日の出を拝み、樹林帯を進むと小金沢山山頂。三角点あり眺望良い。後は少しづつ下る。コムツガ等の樹林帯を経て牛奥への山頂。富士山の眺め・朝日が心地よい。草原を下り、樹林帯を進み(川胡桃沢ノ頭)を経て黒岳山頂。一等三角点だが樹林の中で青空を楽しむ。尾根を進むと視界が開けた(白谷ノ丸)で富士山と南アルプスの眺めは晴天を伴い最高の気分。一気に下って湯の沢峠から登り返すと大蔵高丸山頂。ここも富士等眺め良い。来たルートに戻り、石丸峠より、都水道局の防火帯の坂を上り、(熊沢山)に寄り道して戻る。2 日共絶好の山歩き日和で風もなく、富士山、南アルプスの眺めを楽しむ。雪の季節で、東北、日本海側共残る山々は、車でのアプローチ難しく、春 3 月位まで冬眠状態。関東・東海も遠距離で春まで途切れ途切れの報告となる予定。悪しからず。足がなまらないようにしないと・・・

好天で遠征。11/30(土)晴れ山梨東部 3 山「甲州高尾山」山頂 8:10「源次郎岳」同 10:50 7:40~13:15(5:35)大滝不動口より周回。林道分岐より少し行くと甲州高尾の案内あり、急坂進み尾根に出ていくつか越えると甲州高尾山の標識。富士、南ア、朝日とこの上ない景観を楽しみ、先の剣ヶ峰の三角点まで行き尾根を戻り、奥へ尾根を進む。富士見台を経て三角点のある(棚横手山:過去火災の多いところ:大富士見台)、さらに進み(大滝山)を経て車での移動より歩くことを取り、奥へ道らしき尾根を進み、林道の舗道へ出

る。尾根が複雑なため、林道歩き。何か所も崩れて通行止めの林道を進み、鳥を取るため陣取るカメラの放列に会い進むと牛奥峠の登山口。なだらかな尾根を進みピークより尾根伝いに少し下っていくと源次郎岳山頂。三角点のある広場で、富士、南ア等眺めは樹林越しに良い。辿ったルートで晴天を楽しみつつ戻る。「雁ヶ腹摺山」15:00～16:50(1:50)大峠より往復。整備された道を進み、あっという間に腹摺山山頂。500円札の富士山の撮影場所で富士の眺め最高。近くの山へのアプローチを2回試みるが、時間なく断念し夕日を楽しみつつ戻る。12/1(日)晴れ南ア深南部1山「伝説のハイカー」第何弾。「青笹山」7:25～16:40(9:15)道のない山で、山梨の雨畑の稲又沢第二堰堤より往復。居合わせた狩猟の人に池大明神のルートを教えてもらい次の堰堤を河原まで下り、浅い川を渡り、鳥居に進み、さらに参道を経て池大明神を拝み、奥の尾根に進む。急坂で切れ落ちているガレバを慎重に上る。尾根分岐に赤紐をつけつつ位置を確認しながら尾根を進む。途中雪が出てきて足跡が残ると歩きがスムーズに。倒木に苦労しながら山容に近い尾根ピークまで進み一息入れる。アップダウンを繰り返し先人の赤テープ等に助けられながら山頂の見えるところまで進む。昨日の山行の疲れと安全確保のロープ等の荷物が重さを増すような感覚に、山頂への壁のような急斜面に心が折れそうになるのを騙しつつ、ゆっくりと上へと腕に疲労が溜まらないよう足を進め、藪は避けつつ、鹿道等利用し、縦走ルートの尾根に出る。そこからすぐに青笹山山頂。三角点あり、樹林の中に笹の道に陽光きらめく念願の山頂に大満足。食事後ルート確認をしながら来たルートに戻る。下りで急な尾根を辿って来たこと実感。ガレバの急斜面はより慎重に下り、神社より橋へ出て戻る。天候と時期に(雪はまだ浅い)恵まれたことから、無事往復でき、池大明神、お日様に感謝。体力的には、かなりきつめの山歩き。

*穂高例会のDVD有難うございました。山での感覚が蘇り、一生の記念になるもので作成された方々と一緒に歩かれた皆様はこの場をかりて厚く御礼申し上げます。

山仲間(山・スキー・4000名山等で大変お世話になった)を悼んで山歩き。12/7(土)長野東2山「茂来山」8:05～10:10(2:05)真木沢口より往復。沢伝いに唐松林を進み、急坂を登り尾根へ。急坂を進み霧久保コースと合流し少し進むと茂来山山頂。二等三角点、八ヶ岳連峰等眺めよい。朝日心地良く、雪はなしが冬型で風冷たい。下りは落ち葉踏みを楽しみつつ下り、登山者2人に会う。「男山」11:50～14:15(2:25)山の中腹の閉鎖したゴルフ場より奥に進み、尾根に取り付き、鹿道・境界尾根を枝を掻き分け進み、天狗山からの縦走ルートに合流し少し進むと男山山頂。三角点あり、八ヶ岳・南アの山々の眺めよい。下りは尾根途中よりショートカットし、打ち放し跡に出て戻る。12/8(月)曇り北アの端1山「黒沢山」7:25～12:45(5:20)道のない山。一度道間違えた山でリベンジ。送電保守道を利用し鉄塔まで行き、あとは急坂を進むと平坦な(金比良山)。雨衣をつけ笹についた雪を払い・掻き分けつつ尾根を進む。笹の藪に足を取られながらも黙々と尾根を登る。大岩・ワイヤーの地点で一息入れ、急坂を雪笹を掻き分け進み、平らな黒沢山山頂。笹・シラビソ林・雪で、視界ないが、太陽が顔を出してくれた。下りは最初の出だしを注意し、あとは雪を払った笹と雪足跡を目安に下り、途中より業道へショートカット。急坂を一気にかつ慎重に下り、橋袂の駐車場へピンポイントで戻る。重い雪の笹藪の登りは、途中挫折そうになったが、一本尾根で前進あるのみで以外に歩けた。

12/14(土)岩手北部1山「西岳」11:00～12:50(1:50)奥中山スキー場より往復。リフト無料開放だが、山歩きのリフト乗車はNGで拒否され、ゲレンデの端を鉄塔目指し、つぼ足で登る。圧雪あり、歩き易いがところどころ柔雪で沈む。稼働の最終リフト先も圧雪あり頂上近くまでいく。後はすぐ間近の山頂へ新雪を進むが、腿、腰まで潜り、ワカンをつけて何とか山頂。方位盤あり、隣は電波塔。曇りで一時陽も差すが、気温低く、すぐ来たルートでワカンのまま下山。下りは余裕で、スキー・ボードをする人を眺めていた。夕方北上の入

畑温泉でJAC 岩手支部会合に出席し懇親。翌日は 40cmの雪を払い、北上展勝地の国見山を散策。

年末年始紀伊半島東部に大遠征。その 1 12/28(土) 三重中部「矢頭山」18:20～19:30(1:10)長距離運転後、仁王峠より往復。雪・夜間登山。三角点あり、街と星明かり楽しむ。12/29(日)伊勢「朝熊ヶ岳」7:00～8:45(1:45)出会いの広場より往復。整備された自然歩道で山頂に神社あり、晴天で海・山々の眺めよく登山者多し。「牛草山」9:50～11:00(1:10)中央ルートより進み急坂より尾根に出ると間もなく山頂。三角点あり、陽光、山々・海眺め良い。下山は東尾根ルートで、(東尾根四峰)より下る。「獅子ヶ岳」山頂 12:40「七洞岳」同 14:35 11:55～17:25(5:30)日の出の森より長駆縦走往復。遊歩道を展望広場を経て、向かいの山へ。鞍部を経てすぐ獅子ヶ岳山頂。三角点あり、展望良い。次へは5キロの尾根歩き。アップダウンを幾度も繰り返し(中岳)を経て七洞岳山頂。一等三角点、陽光良く、360度のパノラマを満喫。戻りは来た尾根ルートを辿り(剣尾山、榊ヶ岳、榊ヶ岳北峰)を経て夕暮れに戻る。少し無理しすぎ。12/30(月) 三重南「滝原浅間山」7:15～9:35(2:20)裏コース、鉄塔保守路を辿り、植林地の尾根を林道を幾度か横切り進むと一等三角点の山頂。電波塔が林立。さらに奥に進み平坦な山頂の(根松山)まで行き戻る。「釈迦岳」10:15～12:15(2:00)藤腰峠より急坂を進み、(栃谷山北峰)を経てテープ等に助けられ山頂。三角点ある樹林の中で、陽光心地よく静か。来た尾根ルートに戻る。「総門山」14:15～17:20(3:05)林道総門線崩壊で登山口5キロ手前で通行止め。止む無く長靴で歩く。途中幾度も道をショートカットで急坂辿る。凄まじい崩壊で復旧は困難な状況。雪の登山口より、先人の足跡を頼りに尾根に出て急坂進むと10cmほどの積雪の山頂。樹林の中で三角点あり。戻りも来たルートでショートカットし薄暮前に戻る。

その 2 12/31(火) 三重南「行者山」7:30～9:10(1:40)坂津登山口より往復。コンクリ階段より登り、急坂の尾根を進むと山頂。三角点・祠、朝日・海・山の眺望良い。下りは最後に道を外したが、少し離れた舗道へ出て無事戻る。「南亦山」10:15～11:10(0:55)雪・落石の林道を何とか車が凌いで登山口。雪の階段を淡々と進み、丘へ出てさらに進むと櫓のある山頂。小春日和、積雪10cm、一等三角点で眺め良い。雪を楽しみつつ下る。「姫越山」12:30～16:25(3:55)日の出駐車場より北登山口から南登山口へ縦走。海岸から荒れた道を進み(前ひめご)を経てさらに奥へ進むと山頂。二等三角点で海・山の眺めよい。縦走路は、緑の山、空・海の青、陽光、波の音が心地よい。降りた尾根からの平坦路は同じ景観で長く感じた。